

SHIZUOKA
GRADUATE UNIVERSITY OF
PUBLIC HEALTH
ANNUAL REPORT
2023

発行：静岡社会健康医学大学院大学 教務課（2024年6月）
〒420-0881 静岡市葵区北安東4-27-2
電話番号 054-295-5401
kyomu@s-ph.ac.jp
<https://s-ph.ac.jp>



本学アニュアルレポートはWebサイトでもご覧になれます。
<https://s-ph.ac.jp/disclosure/corporate/plan>

表紙：本学の外観

2021年2月に教育棟及び附属棟が、翌2022年2月に研究棟が竣工して間もないことから、近代的で清潔感あふれる施設・設備が好評です。



静岡社会健康医学大学院大学
SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

アニュアルレポート 2023
ANNUAL REPORT 2023



Contents

- 1 | 学長メッセージ
- 2 | 世界の健康を牽引する大学を目指して
- 4 | 運営の体制
- 5 | 高度専門人材の育成
- 7 | プロジェクト研究
- 10 | 地域産官学連携
- 15 | 成果の還元
- 18 | 地域との結びつき
- 19 | ダイバーシティ
- 22 | 財務状況等
- 26 | キャンパス紹介
- 27 | 基礎データ
- 28 | 論文及び学会等発表一覧

学長メッセージ

静岡SPHモデル構築をめざして

私たちの静岡社会健康医学大学院大学（略称：静岡SPH；School of Public Health）は約5年間の準備期間を経て2021年春に開学し、2024年3月には修士二期生を送り出す運びとなりました。この3年間、静岡県のひたかたならぬご支援と教職員一丸となったたゆまぬ努力、そしてなによりも真摯な院生諸氏のひたむきな修学姿勢の賜物として、本学は想定以上に順調な発展を遂げてきたと自負しています。

本学は建学の趣旨から他大学とは異なる出自を有しています。もちろん大学院大学として世界最先端の研究をめざすことはいまでもありませんが、当初から研究成果の地域・社会への還元と健康長寿延伸を担う高度専門人材の育成を基本理念に掲げてきました。そのため、市町をフィールドとしたコホート研究や静岡国保データベース(SKDB)を最大限活用したビッグデータサイエンスの構築など積極的に社会に視野を広げて地域に足を踏み入れ、学問の殻に閉じ込められることのない「あたらしい大学のかたち」を模索してきました。静岡県からの指定課題に取り組み、多くの自治体のアドバイザーなどを務めることで地域社会への実装を志向するのが私たち独自の静岡SPHモデルです。

公衆衛生学はこれまでも集団の生命と健康を守るために科学的根拠に基づく研究を通じて社会貢献に尽力してきました。図らずもコロナパンデミックは人々に公衆衛生学の重要性を再認識させたのではないかと思います。社会健康医学は従来の公衆衛生学にデータサイエンスやゲノムコホート研究などの領域横断的・学際的領域を加えたあたらしい学問体系ですが、その底流には、研究成果を人々にわかりやすく伝えるヘルスコミュニケーションや健康政策に介入する「行動する公衆衛生学」という思想が具現されています。私たちはまさにその「行動する公衆衛生学」を指向した静岡SPHモデルを是非自分たちの手で構築したいと念じています。

ここに開学後はじめてのアニュアルレポートを刊行することができました。静岡SPHモデルをめざす私たちの熱い意思を肌で感じていただき、ぜひ引き続き本学に対するご理解と力強いご支援を賜れば、それが教職員・院生にとってなによりのさらなる成長のためのエネルギーとなります。どうぞ今後とも静岡SPHをくれぐれもよろしくお願いいたします。

令和6年3月

静岡社会健康医学大学院大学
学長・理事長



世界の健康を牽引する大学を目指して

基本理念

健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、
健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、
国際社会に貢献する「知と人材の拠点」を目指します。

基本方針

POINT



高度専門人材の育成

社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の現場でその向上に貢献できるプロフェッショナルな人材を育成します。

POINT



最先端の研究

臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析に取り組みます。

POINT



成果の社会還元

研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から人類の健康増進や疾病予防に貢献します。

校章



静岡社会健康医学大学院大学から世界に羽ばたく人材を、医療の「医」の旧字「醫」の草書体をモチーフに、鳥の形にデザイン。
その中心部には、ハートが隠されており、社会健康医学が人々の健康と福祉の向上を図るための学問であることを表している。
清潔感のあるブルーのグラデーションで、成長・発展を表現。

中期目標・中期計画

中期目標・中期計画（2021年度～2026年度）は、本学の社会に対する「公的な約束」であり、次の3項目を重点的な目標に位置付けています。この中期目標の達成に向けて、着実に中期計画を実行していきます。

- 1 社会健康医学の学識を社会に還元する人材や社会健康医学を継続的に研究する人材の育成
- 2 社会健康医学研究の長期かつ継続的な推進
- 3 社会健康医学研究の成果の地域への還元

また、毎年度、中期計画の取組状況について自己点検・評価を実施・公表することで、社会に対する説明責任を果たし、皆様の理解と信頼の獲得に努めます。

中期目標・中期計画全文
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/corporate/plan/>

各取組の実現に向けた役員体制

(2023年度末現在)

宮地 良樹
理事長兼学長

中山 健夫 副理事長(教育研究担当)
(京都大学大学院医学研究科教授・
京都大学医学部附属病院倫理支援部部長)

伊藤 裕 副理事長(将来構想担当)
(慶應義塾大学予防医療センター特任教授・
慶應義塾大学名誉教授)

芦川 敏洋 理事(総務担当)

浦野 哲盟 理事(教育研究担当)
(浜松医科大学特命研究教授・
十全オアシスクリニック院長)

後藤 康雄 理事(経営担当)
(はごろもフーズ(株)代表取締役会長)

渡邊 高秀 監事(弁護士)

吉村 峰仙 監事(公認会計士・税理士)

運営の体制

組織図



高度専門人材の育成

「知と人材の拠点」を目指して

■ 教育課程の充実

静岡社会健康医学大学院大学では、社会健康医学の最先端で未解明の課題に果敢に取り組む研究者の育成に向けて、2023年度に「社会健康医学専攻博士課程」を開設しました。定員2名に対して、初年度は、本学修士課程修了者を含む6名を受け入れ、新課程をスタートしています。

修士課程では、聴覚・言語分野に特化した「聴覚・言語コース」を開設しました。修了後は、研究者として本分野の第一人者となり、医療関係者においては、診療内容の質の向上、新知見の発信などの社会還元、保健福祉関係者においては、現場での指導的立場となることが期待され、聴覚障害児の障害軽減につながることも目指します。

また、2024年度に、「認定遺伝カウンセラー」を養成する「遺伝カウンセラー養成コース」を新設します。「認定遺伝カウンセラー」は、様々な分野で遺伝医療やゲノム医療等の推進に不可欠な人材として、活躍が期待されます。

これらの教育課程の設置に伴っては、専任教員も6名増員し、大学全体の教育研究体制のさらなる強化を図っています。



■ 教育環境の整備

開学時からオンライン環境を積極的に整備しており、遠隔による授業や教育研究指導を行うことを可能としています。これにより、本学に通う多くの学生が仕事と学業の両立を実現しています。



■ 図書館

24時間利用可能な本学図書館は、公衆衛生学の5つのコア領域を中心に教育研究に必要な選書を揃えています。また、電子ジャーナル・データベースは約4,000タイトルを収載しています。

2023年度は、学術リポジトリの開設に向けた活動を中心に、本学教員・学生の研究環境の整備に取り組みました。



聴覚・言語コース

2023年4月、修士課程に「聴覚・言語コース」を新設しました。聴覚・言語領域には、博士課程1名、修士課程1名の耳鼻咽喉科専門医でもある学生2名を迎えました。教員は、教授2名、講師1名、非常勤講師2名体制となります。

招待講演

高木明,「内耳の電気刺激(人工内耳)による音声言語獲得」,NTT2023オープンハウス

オープンセミナー

「音響環境に適応するヒトの聴覚」,2023年8月23日 大会議室

Extending human auditory ecology to the perception of natural soundscapes by humans in rapidly-changing environments. Prof. Christian Lorenzi (Ecole normale supérieure, Paris)

国際学会発表

J.Hollowell, A.Takagi:Challenges for and benefits of early hearing detection and intervention information system (EHDI-IS) implementation. 14th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant and Related Sciences (APSCI 2023 Seoul), Nov. 8-11, 2023, Seoul, Korea.



Open seminar



聴覚心理実験

遺伝カウンセラー養成コース

「遺伝」は、従来は、ごく一部の限られた疾患が対象でしたが、近年は、医療の幅広い現場に続々と実装化され、医療の中の重要な分野となりつつあります。更に近い将来には、臨床の分野にとどまらず、疾患の予防や超早期介入にも有用となる可能性を秘めています。一方で、個人の遺伝情報は究極の個人情報であり、その特性を理解して取り扱う必要があり、その人材が求められています。

令和6年度に新たに開講する遺伝カウンセラー養成コースでは、遺伝にまつわる医学的のみならず、社会的、心理的な問題にも対応できる人材を輩出することを目的としております。

2年の間に、遺伝にまつわる諸問題に対して、独自の視点での研究を支援してまいります。

ゲノムコホート

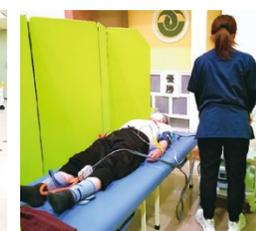
県内の地域住民を対象とした健康追跡調査(コホート研究)を行い、病気の予防に役立つ成果を生み、誰もが健やかに長生きできる社会を目指します。

およそ5年おきに同一の個人に調査をお願いし、長期間にわたる健康状態を記録します。最先端のゲノム科学(ヒト遺伝子情報を網羅的に調べる手法)を取り入れ、生まれ持った体質に応じた予防医学の発展に貢献します。継続的に記録保管されたデータと検体は、現在そして次世代の研究者が質の高い研究を行う基盤となります。静岡県民の健康を支える貴重な財産といえます。

地域住民と研究協力者の参加を募る研究過程そのものにも意義があります。健診の説明会・ニュースレターを通して、健康意識を高めます。本事業は県内外の大学・研究機関・企業や県内自治体との共同事業であり、各団体間の交流を通じた研究発展と施策の改善につながることも期待されています。



年度	地区	参加人数
2021	賀茂	402
2022	賀茂	1287
2023	袋井市	1854



コホート調査(ふくけん!健診ミニ)の実施

- 2023年5~12月にかけて、袋井市の総合検診に相乗するスタイルでコホート調査「ふくけん!健診ミニ」(全17回)を実施し、966名の参加者を得ました。健診ではサルコペニア(体組成・握力・椅子立ち上がり試験)と骨密度の検査を行い、対象者にその場で結果を回付し予防のための指導を行いました。また、血液検体を分析し、アルブミンや高感度CRP等の通常の特健診では評価しない項目について結果を回付しました。尿検体の分析からは、食塩摂取量の推定値を回付しました。ふくけん!健診ミニを通じて、研究に必要な情報と試料を得るとともに、結果の回付を通じて市民の健康づくりに貢献しました。

コホート調査(ふくけん!健診)の実施

- 2024年2~3月にかけて、常葉大学、静岡県立大学、京都大学、聖隷福祉事業団等の関係機関と連携し、袋井市でコホート調査(ふくけん!健診)を実施しました。調査日は16日、準備日は3日、検体等回収日は10日(計29日間)でした。
- コホート調査に先立ち、健診実施会場等で住民向けの事前説明会を実施しました(1日2回、2日間)。説明会では、健康づくりに関する講演会も併せて実施しました。
- ふくけん!健診には、のべ888人の参加者を得ました。
- コホート調査で収集した臨床情報をクリーニングしデータベース化しました。血液・尿中の主要なマーカーを測定し、残検体を冷凍保存しました。
- 末梢血からDNAを抽出し、ゲノム解析を行うための試料を確保しました。
- コホート調査後は、結果(特定健診相当分ならびに医学的意義が明確な項目)を対象者に回付するとともに、結果説明会を開催しました。結果説明会では、サルコペニアの予防に有用な運動指導や、脳卒中予防、歯科衛生に関する講演も行いました。

コホート調査への参加スタッフの数

- コホート調査(ふくけん!健診ミニ、ふくけん!健診、ならびに関連業務(事前説明会、結果説明会、市町や医療機関等の調整業務)のため、研究代表者が年間67日間袋井市に出向きました。
- コホート調査に関わった教職員(他大学や県からの参加者含む)は延べ606人でした。

静岡県市町国保データベース (SKDB)

本学では、静岡県下全35市町の国民健康保険および後期高齢者医療制度加入者の医療・介護・特定健診データを結合した大規模なデータベース「静岡県市町国保データベース (SKDB)」を整備し、社会健康医学に関するエビデンスの創出を目的とした医療ビッグデータ研究を実施しています。令和5年時点の静岡SKDBの登録者は約265万人で、最長で10年以上追跡することが可能です。様々な疾患の発症や予後の予測や、治療効果評価など社会健康医学に関するエビデンスの創出を目指しています。これらは Shizuoka Study の名前で論文発表しており、令和5年度では13報の実績があり、そのうち6報が国際雑誌への報告でした。令和3年度は14報（うち国際雑誌5報）、令和4年度は23報（うち国際雑誌8報）でした。コホート研究と並び本学の研究の主流となっています。

図1. SKDB登録者の年齢分布の年次推移 (SKDB2024)

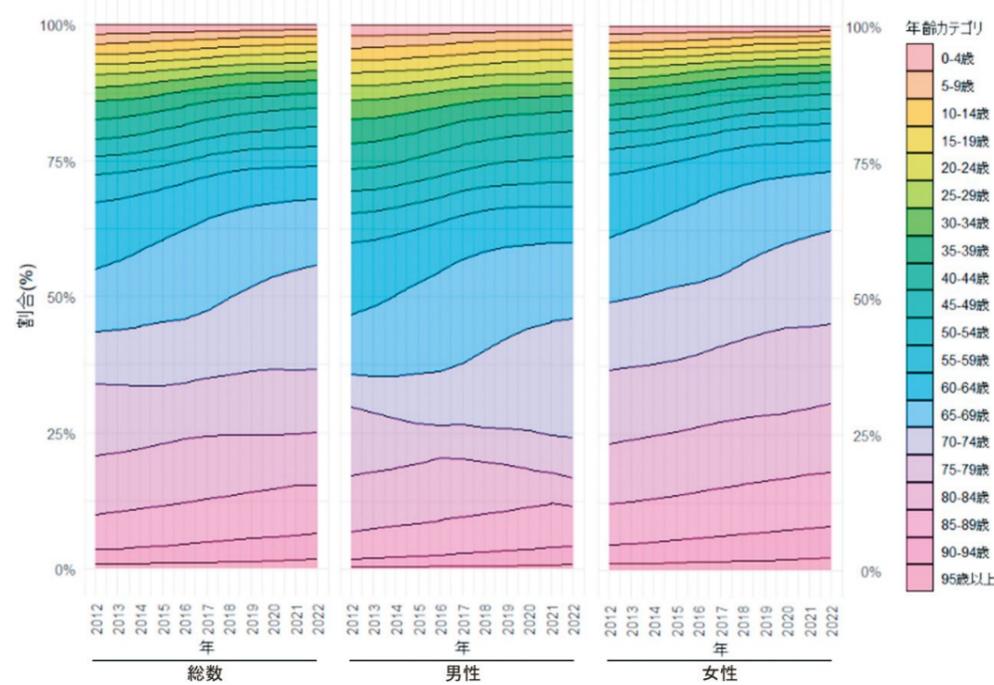
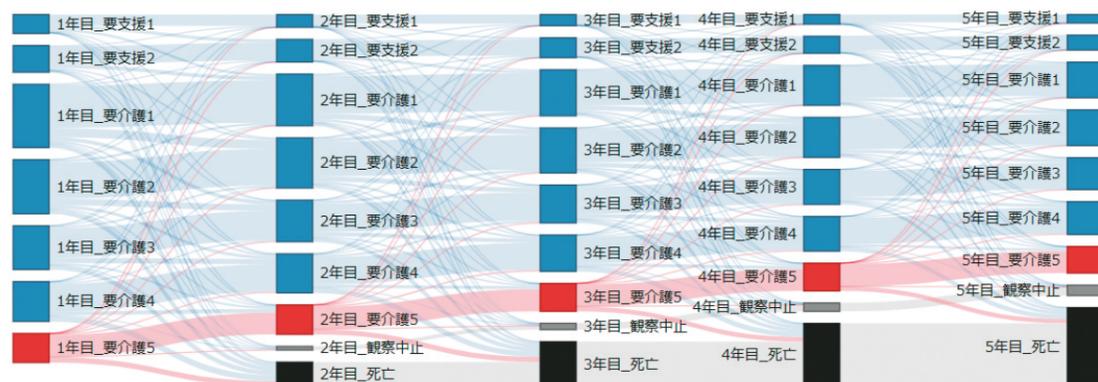


図2. 介護認定後の介護度の推移 (SKDB2024)



医療ビッグデータ解析研究に関する論文件数及び学会発表件数 13件

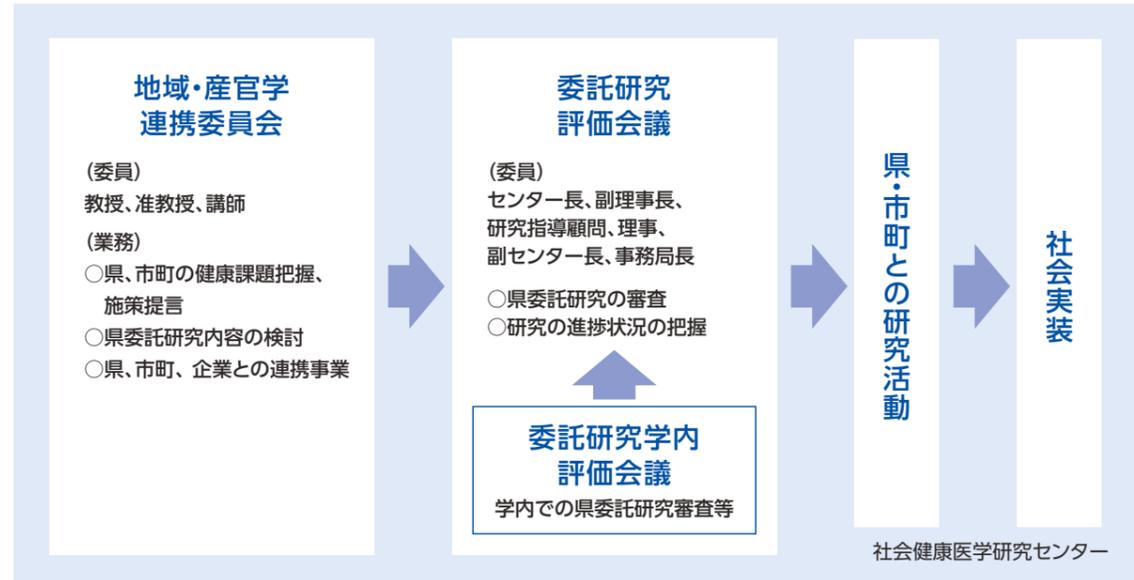
継続研究 34件

新規開始研究 26件

- 【持続する孤立性拡張期高血圧と心血管イベントとの関連：SKDB研究】
- 【KDBを用いた多剤併用と大腿骨近位部骨折発生リスクとの関連の検討】
- 【虫垂切除による大腸癌の発生リスクの確認】
- 【薬剤性肺障害発生の因果リスクが推定される医薬品の探索】
- 【腎機能分類と医療費の関連性に関する研究】
- 【フルオロキノロン系抗菌薬による大動脈イベント発生の因果リスクの推定】
- 【レセプトと健診データを用いた糖尿病発症予測の研究】
- 【脂質異常症治療における因果フォレストモデルを用いた高ベネフィットアプローチの有用性評価】
- 【糖尿病患者における膀胱癌発生のリスク因子の検討】
- 【橈骨遠位端骨折における二次性骨折リスク因子の検討】
- 【高齢者における急性A型大動脈解離の術式選択の妥当性について】
- 【腎機能とバラシクロビル塩酸塩による中毒性脳症の発症頻度】
- 【大腸癌の発症における高血圧の影響についての研究】
- 【卵巣癌の治療進歩に伴う医療費への影響に関する調査】
- 【緩和的放射線治療に関する記述疫学的研究】
- 【脂質異常症患者における医療機関受診の頻度が脳血管イベント、心イベント及び死亡率に与える影響】
- 【フルオロキノロン系抗菌薬によるくも膜下出血の因果リスクの推定】
- 【急性B型大動脈解離に対する治療成績のレセプトデータによる把握】
- 【非感染性疾患に関する大規模国際疫学調査】
- 【生活習慣病患者における初回薬物治療の種類が心イベント、脳血管イベント、死亡率及びコストに与える影響】
- 【大腿骨骨折の記述疫学的分析とリスク因子の解明】
- 【季節性アレルギー性鼻炎や環境要因と小児喘息悪化との関連】
- 【SKDB を用いた静岡市糖尿病有病率の地区別推計】
- 【先天性胆道拡張症/膵・胆管合流異常患者のフォローアップ状況および晩期合併症の検証】
- 【SKDBを用いたこども医療費助成政策がAmbulatory care-sensitive conditions (ACSCs) 入院に与える影響に関する研究】
- 【酸分泌抑制薬の処方状況の解析】

地域産官学連携

地域社会への実装を生み出す静岡SPHモデル



- 社会健康医学研究により得られた知見や成果を、行政や医療機関などと連携して社会実装する取組を推進しています。
- センター長及び副センター長を中心に県と連携を図り、県や市町、企業等からの諸課題に対する対策の提案や助言等を積極的に実施しています。

静岡県からの指定研究の取組

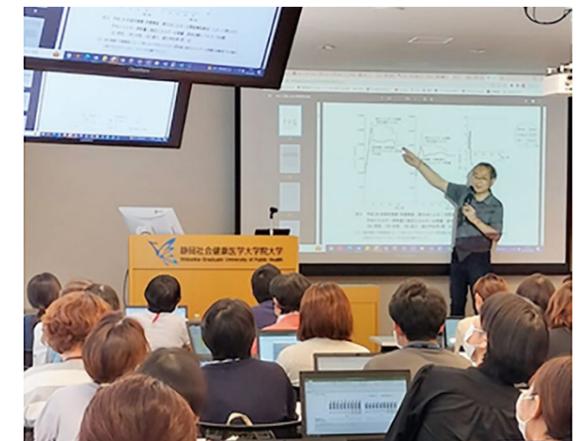
課題名	研究期間(年度)	目的	地域社会への社会実装
健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング	R4~5	生活習慣病予防のモニタリングに必要な、栄養素摂取量、身体活動量、喫煙、飲酒などの生活習慣などを、市町毎に十分な精度・代表性を以て適切な間隔で測定できるように体制づくりの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・市町等の行政施策に直接利用できる生活習慣モニタリングを実施するシステムの構築 ・モニタリングに基づいて、住民の健康状態の把握を行い、それに基づいた効果的な行政施策の立案、実施、及びその評価方法の確立
新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での発生状況の分析	R5~6	各施設から県に報告された新型コロナウイルス感染症患者の発生報告に基づく発生状況の分析及び集団発生等予防の方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の発生報告に基づく行政関連資料を利用した感染対策施策の実例の周知 ・行政を通じた各高齢者施設・障害者施設への周知及び今後の感染予防施策への貢献

結果 非ランダム調査2 研修会

開催日時 2023年9月5日 10:00-17:00

全市町を対象に集計実習などを行う研修会を実施

健康寿命の延伸に寄与する栄養施策等の推進を目指し、地域を把握するための基本的な考え方や調査手法、結果の活用方法等、実践について学びました。



医療連携

県や県の施策に協力する団体や医療機関と連携し、 本県の医師などの人材確保対策へ積極的に貢献しています

地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合（代表理事：宮地良樹）の理事会（全4回）に理事長が出席し、静岡県立病院機構、地域医療機能推進機構と医師確保や医療連携などについて意見交換を行い、連携を深めました。

県から医師配置調整業務を受託し（受託事業）、配置調整連絡会議等（全4回）、医師確保部会（全4回）、及び医療対策協議会（全3回）への参加、県との定期協議（原則月1回）への参加、専任医師1名を採用し、その専門性を生かしたキャリア形成プログラムの再構築を行う病院への助言及び静岡県立総合病院との協働による県医学修学研修資金被貸与者・病院面談の実施などを通じて本県の医療体制を支える医療人材の確保に貢献しました。また、事業の実施を通じて、県や医療機関、浜松医科大学等関係機関との連携を深めることができ、教育研究の基盤を強化しました。

様々な地域の課題解決に貢献するために、 医療機関等との連携・協力関係を構築しています

地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合における連携として、静岡県立総合病院と締結した図書館の相互利用協定の下、互いに24時間利用可能な体制を維持し、本学教員・学生のみならず、同病院医師等の調査研究の利便向上も図りました。

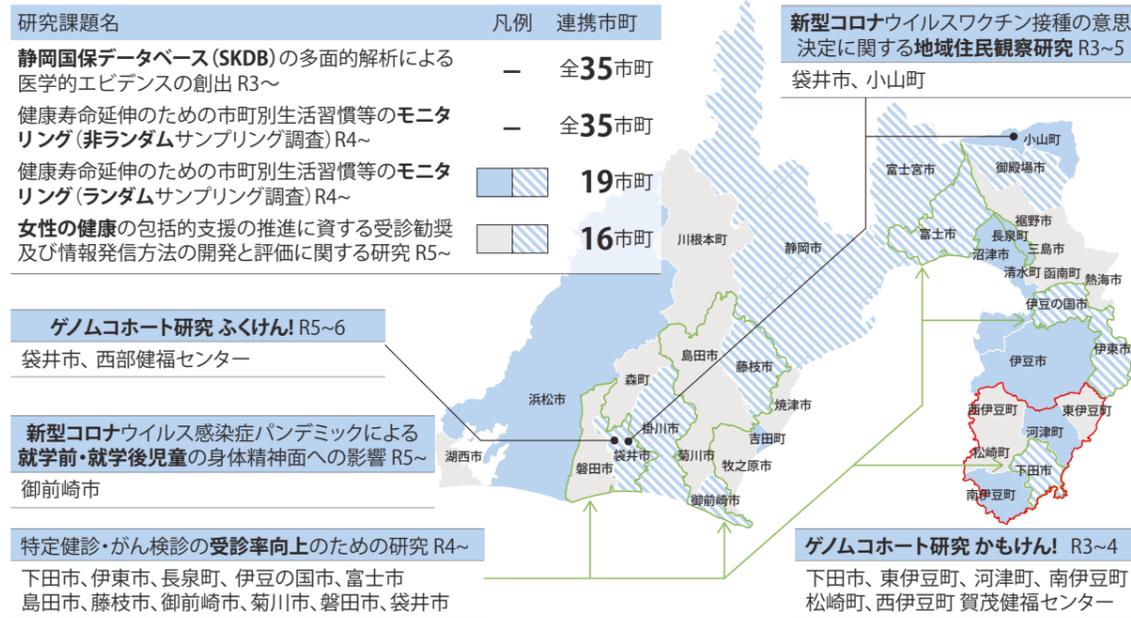
聴覚領域について、先端的な取組を進める静岡県立総合病院と 連携しています

静岡県立総合病院での取組を活かして、聴覚、語音認知、音声言語獲得及びその障害のメカニズムについて基本的な知識を得るとともに、オーディオロジー（聴能学）に関する学識を修めた上で、広く認知科学にまで精通した人材の養成に向けて、修士課程内に聴覚・言語コースを設置し、1名が入学しました。



連携 1 市町をフィールドとした研究

- 県内全市町との連携により研究成果の社会実装を目指す多様な研究を展開
- 地域をフィールドとした研究が市町の協力により年々増加



連携 2 市町・県機関の委員やアドバイザーとして参画

- 社会健康医学の学識を行政施策に役立てるため、
豊富な研究実績や知見を持つ専任教員が多くの市町・県機関で活躍

県内の行政機関との関わり(主なもの)

区分	市町・県機関	協議会等の役職・講演会の名称	教員名
市町	静岡市	がん検診精度管理協議会委員	山本教授
	静岡市	国民健康保険特定健康診査等実施計画推進協議会委員	満田准教授
	富士市	ナッジ研修会講師	満田准教授
	富士市	健康ふじ21推進のための研修会講師	佐々木講師
	袋井市	健康増進業務アドバイザー	田原教授、山本教授
	御前崎市	健康づくり推進協議会アドバイザー	山本教授
	牧之原市	健康づくり推進協議会アドバイザー	田原教授
	東伊豆町	健康づくり推進協議会構成委員	満田准教授
	小山町	行政アドバイザー	菅原教授
	賀茂健康福祉センター	健康づくりリーダー研修会講師	佐藤講師
県関係	中部健康福祉センター	健康増進関係事業情報交換会(がん検診に係る助言)	山本教授
	西部健康福祉センター	食育指導者研修会講師・助言	満田准教授
		ふじのくに健康増進計画推進協議会委員	山本教授
	健康福祉部	血圧測定習慣化タスクフォース委員	田原教授
		高血圧対策等データ分析情報活用事業に係る広報検討会アドバイザー	満田准教授
		歯科保健医療提供体制分析・活用事業ワーキング・グループ委員	佐藤講師
	経済産業部	フーズ・ヘルスケア オープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会委員	山本教授
	ICOIプロジェクトアドバイザー	田原教授	

他大学との連携

相互に所有する研究資源を両組織の研究活動全般に活用することで、相互の研究交流を促進するとともに、両組織の学術研究の一層の充実を図るため、国立大学法人弘前大学と、コホート研究を柱にした学術研究交流に関する協定を締結しました。

期間 2023年6月1日～2027年3月31日

連携する学術研究交流事項

- 1 コホート事業の高度化のための研究連携
- 2 研究成果の社会実装を推進するための基盤強化
- 3 URAを含む研究支援人材や若手研究者の育成と人材交流



弘前大学

成果の還元

住民の健康寿命の延伸に資する研究課題を科学的に分析し、県や市町健康増進施策、疾病予防対策の政策形成や各種施策の推進を積極的に支援しています。

また、研究成果を地域に還元していくことは、国内外にも大きな波及効果を生むことから、県や市町とともに、住民が自らの健康を意識し主体的に健康増進活動に取り組めるよう、研究成果を住民に分かりやすく情報提供しています。



賀茂地域で実施した「静岡多目的コホート事業賀茂健康長寿研究」のフィールド調査で収集した臨床情報等を活用した研究を推進しました。

一例として、咀嚼力が低下している者では有意な骨格筋量の減少と体重の増加が観察されましたが、そのうち6割以上で咀嚼力の低下を自覚できていなかったことから、保健指導においては、咀嚼について丁寧に聞き取ることが重要であることを提案しました。



特定健診・がん検診の受診率向上の取組

特定健診受診率向上に関心の高い市町（伊東市、伊豆の国市、下田市、御前崎市、袋井市、島田市、藤枝市、磐田市、富士市）に対し、分析結果に基づき、受診率向上に効果があると考えられる施策を市町とともに立案し、実施可能な施策を実施した。また、がん検診・特定健診の受診勧奨動画を作成し、県・市町に提供を行った。加えて、裾野市、熱海市に対し、がん検診受診勧奨資材を提供しました。

フォーラム、セミナー、公開講座

地域の方々が、自らの健康を意識し、主体的に健康増進活動に取り組む機運を醸成するため、フォーラムやセミナー、公開講座を開催しています。



2022年10月、「第27回静岡健康・長寿学術フォーラム」に教員が実行委員及び企画運営委員として参画し、「震災復興から未来型ヘルスケアへ」をテーマとする学術セッションを主催するとともに、高校生及び大学生の研究活動発表会を支援しました。また、フォーラムの企画・運営にも携わりました。

(参加者数: オンライン含め213名)
主催: 静岡健康・長寿学術フォーラム実行委員会 (静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡社会健康医学大学院大学、静岡県)

2023年2月、県主催(大学共催)で健康寿命をのばそう!講演会を開催し、高血圧対策としての減塩や運動の意義と重要性についての講演会を開催しました。

(参加者数: 147名)



2023年3月、「遺伝にまつわる四方山話」及び「オーラルヘルスプロモーション〜歯磨きは裏切らない〜」をテーマとした公開講座を開催しました。

(参加者数: 147名)



2023年9月、県主催(大学共催)で「野菜マシマシ」をテーマに健康寿命をのばそう!講演会を開催しました。

(参加者数: 115名)

2023年12月、「豊かな健康を栄養で育む」をテーマに、静岡社会健康医学セミナーを初開催し、好評をいただきました。

(参加者数: オンライン含め62名)



2024年3月、「『あたりまえ』でない聞こえのはたらき」及び「先進的な治療を受ける前に考えておきたいこと」をテーマとした公開講座を開催しました。

(参加者数: オンライン含め61名)

地域との結びつき

地域の環境づくり

静岡市のシェアサイクル事業「PULCLE (パルクル)」に協力し、サイクルポートを設置しています。地域の方々にもご利用いただき、喜ばれています。



PULCLEとは、静岡市内のまちなかに複数のサイクルポートを設置し、いつでも、どこかのポートでも自転車の貸出・返却ができる静岡市の新しい移動システムです。
PULCLEの普及により、公共交通機関の補完や利用促進、自動車交通の抑制による環境負荷の軽減、自転車を所有から共有に切り替わることによる放置自転車の減少、まちなかの回遊性向上による地域活性化を目指します。
[静岡市公式Webサイトより]

大学敷地西側のバス停前に バス待合所を設置

これまでバス停には待合スペースがなく、歩道上で待機するバス利用者が歩行者の支障となっていました。安全・安心に過ごせる環境となりました。

教職員や学生とともに、地域の方々にもご利用いただいています。



城北小学校の6年生が見学に来ました

2022 (令和4) 年7月15日、お隣りの城北小学校の6年生が、見学に来てくれました。宮地学長の大学紹介や田原研究科長の講義の後、院生の講義や研究室等の施設見学が行われました。



Diversity

ダイバーシティ

多様なバックグラウンドの学生

本学には、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まります。それぞれの専門性を基盤に本学で学ぶ学生たちは、社会健康医学を学んだ先に、それぞれの未来を見据えています。



MODEL 1

行政保健師

研究成果を行政の相談支援の現場に還元

現在取り組んでいる研究での成果を行政における相談支援の実践現場に還元し、住民の声を生かした相談体制を実現することが目標です。また、社会健康医学での学びや研究のさらなる発展から、住民の健康行動を後押しする効果的なツールの開発などにも取り組みたいと考えています。

大嶋 美智子さん 修士課程 修了

MODEL 2

勤務医

より大きなデータベースを活用した臨床研究をしたい

修得したビッグデータの取り扱い方、統計解析手法を生かし、臨床研究の幅を広げていきたいです。今後はより大きなデータベースを活用した研究を行っていきたく考えています。また大学院で得た知識を活用し、多施設共同研究の立案と実践を計画しています。

宮腰 明典さん 修士課程 修了



MODEL 3

製薬企業事業開発職

大学院で得た知識と経験を医薬品開発につなげる

2年間の学びで得た知識と経験を業務に落とし込むことで、患者様のQOLを向上できる医薬品の開発につなげたいと思います。さらには、製薬企業として公衆衛生・社会健康医学の観点から社会に貢献できるような取り組みを立案し推進できればと思っています。

生形 奈菜子さん 修士課程 修了



PUBLIC HEALTH

研究のフロントランナーたち

多様な領域の専任教員

本学には、世界的に活躍している多様な領域の教員が在籍し、講義と研究指導を担当しています。また、以下のような、代表的な六つの分野における最先端の研究に取り組んでいます。

RESEARCH

1 老年医学・高血圧学 地域住民を長期間追跡し、 高齢者特有の疾患の病因を解明

高齢者で観察される臨床的特徴には、様々な要因が複雑に関与しています。例えば、骨格筋の量と質が低下した状態であるサルコペニアは大動脈の硬化と関連し、片脚での立位保持時間の低下が認知機能の低下と関連することが私たちの疫学研究から明らかになりました。このような複雑な連関を紐解くことは、高齢者に特有の疾患の病因を解明し病態を理解する上で必要な知見であり、また予後を予測する上でも役に立ちます。地域住民を長期間追跡するコホート研究から、生活習慣、高血圧、動脈硬化、サルコペニア、フレイルの連関を明らかにすることで、高齢期における疾病予防や健康増進に資することを目的とした研究を進めています。



教授
田原 康玄

RESEARCH

2 研究倫理・研究方法論 研究に関わるすべての人にとって 安全で質の高い研究を目指す

社会健康医学の調査研究では、研究のテーマによらず、その研究データが持つ倫理的・法的・社会的な含意を考慮することが不可欠です。多くの場合、研究は参加者や社会に直接的な利益をもたらすものではないため、研究者には研究のリスクから参加者、社会、そして研究者を守る役割があり、そのための知識やスキルも必要です。これまでに、がん患者と医師による対話の参与観察、先端科学技術に対する一般市民や専門家集団の意識調査、医療機関のWEB情報、行政機関の公開情報など、多様なデータを様々な方法で分析してきました。質の高い安全な研究を目指して、よりよい仕掛けを一つ一つ皆さんと作っていきたくと考えています。

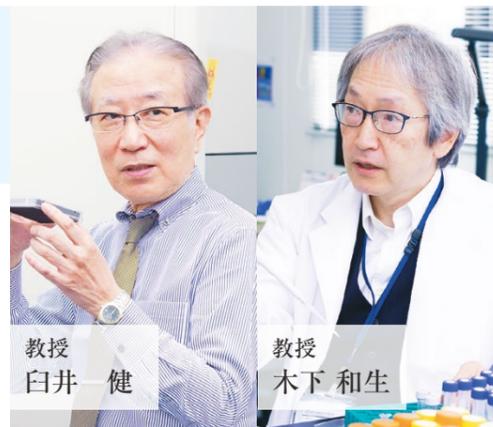


講師
八田 太一

RESEARCH

3 ゲノム医学 最先端ゲノム医学の知見を 健康医学の分野に役立てる

近年、急速に医療現場のみならず健康医学の分野においても「遺伝」や「ゲノム医学」に関する知見が取り入れられるようになってきました。一方でこれらの情報についてはその特性を理解した取り扱いが必要です。未来の健康科学を担う人材には、このような知識を学び、研究に取り組んでいただきたいと考えています。(臼井教授)
研究実験室ではコホート研究で収集する検体の管理や生体分子測定、DNA抽出を行っています。免疫とがんに関わる酵素AIDの研究もしています。細胞培養装置・各種顕微鏡・セルソーター・デジタルPCRなど、定量的生物学実験を行える設備を活用し、人々の健康に役立てます。(木下教授)



教授
臼井 健

教授
木下 和生

RESEARCH

4 聴覚言語学 先天性重度難聴への早期介入には 社会健康医学の知見が不可欠

先天性重度難聴は出生1500人に1人ほどの高頻度で出現し、両親の95%は健聴者です。これまで、これらの児に対する療育は手話以外の選択がありませんでした。約30年前に開発された人工内耳は聾であっても音声言語の獲得できるという点で画期的なものです。内耳の残された聴神経を直接、電気刺激することによって音声認識が可能になります。ただ、その成果を得るための臨界期はおおよそ3歳半までと言われており、早ければ早いほど良いため生後6か月が推奨されています。そして、術後には適切な聴覚活用による介入が大切です。これらの流れを社会に実装するためには医療、保健、教育の連携が必要で、これはまさに社会健康医学そのものです。



教授
高木 明

教授
古川 茂人

RESEARCH

5 ヘルスコミュニケーション 行動科学や行動経済学を基盤に 社会と直結した研究を実施

ヘルスコミュニケーションは、社会における人々の健康の維持増進の支援に取り組む上で、非常に強い武器になります。この分野では、行動科学や行動経済学を基盤に、行政やマスメディアとも積極的に協働し、人々の行動変容に繋げ、エビデンス・プラクティスギャップを埋めるための方法を開発・普及啓発を進めています。また、自然災害に加え、新型コロナという未曾有の感染症蔓延を経験し、ますます需要が高まっているリスクコミュニケーションについても、最前線の現場と直結した研究を実施しています。研究のための研究に終わらず、人々や社会に役立てるための最新の学問であるDissemination & Implementation scienceと一緒に深めましょう。



准教授
溝田 友里

教授
山本精一郎

RESEARCH

6 医療社会学・死生学 死別悲嘆へのサポートが充実した 地域コミュニティの構築を研究

死別悲嘆(グリーフ)に対して、共感的で互助的な地域コミュニティの構築について研究しています。当事者・医療者・宗教者などと一緒に市民団体の一員として、グリーフサポートの小冊子の作成、当事者のわかちあいの会の開催、一般市民向けの看取りや死別に関する連続講座の開催といった社会変革活動に自ら参加し、その過程で自分たちの取り組みの評価や改善を図るために、参与観察的研究や理論的研究を行っています。また、現代社会におけるグリーフやグリーフサポートの様相を当事者の視点から理解するために、死別経験者やグリーフサポート活動に携わる市民と行政関係者に対する、インタビュー調査にも取り組んでいます。



教授
山崎 浩司

財務状況等

主な運営財源の推移

令和5年度の主な運営財源（受入額）は、前事業年度より52百万円増加し、1,093百万円となりました。増加の主な要因は、博士課程の設置による運営費交付金の増加です。

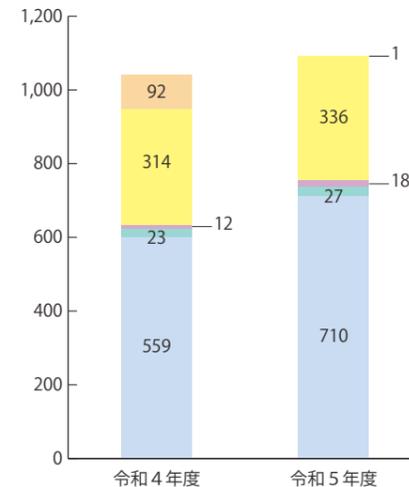
(単位:百万円)

	令和4年度	令和5年度	増減
運営費交付金	599	710	111
授業料、入学金及び 検定料収入	23	27	4
雑収入 (うち 科研費間接経費)	12 (11)	18 (17)	6 (6)
受託・共同研究等収入	314	336	22
寄附金収入	92	1	△91
計	1,041	1,093	52

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。

■ 運営費交付金 ■ 受託・共同研究等収入
■ 授業料、入学金及び
検定料収入 ■ 寄附金収入
■ 雑収入

(単位:百万円)



※上記には、施設費、目的積立金及び出資金は含まれていません。

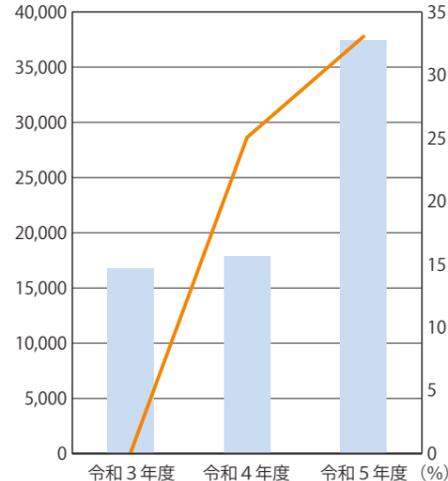
科研費獲得状況

(単位:円)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基盤研究(A)	9,750,000	8,840,000	8,840,000
基盤研究(B)	416,000	897,000	11,945,000
基盤研究(C)	4,744,241	4,678,000	7,091,669
若手研究	1,770,000	1,170,000	4,290,000
挑戦的研究(開拓)	0	0	2,872,000
挑戦的研究(萌芽)	0	2,210,000	2,340,000
計	16,680,241	17,795,000	37,378,669
採択率	0%	25%	33%

■ 年度総額 ■ 採択率

(単位:千円)



公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学への寄附について

皆様からの寄附金は、次のような用途に活用させていただきます。

区分	内容
大学の支援	教育活動等、地域貢献活動、学習環境の整備、大学の運営に要する経費等
修学支援事業	経済的理由により修学が困難な学生の支援 学生又は不安定な雇用状態にある研究者の雇用及び研究への支援
奨学寄附金	学術研究の推進

寄附講座の開設

区分	内容
講座名	ウエルネスみらい講座(タイカ)
講座開設期間	R6~8年度
金額	90,000,000円
研究の目的及び テーマ	「長寿ウエルネス」に寄与することを目指す 【主なテーマ】 褥瘡の実態調査やその発生機序、創傷治癒機転等に関する基礎研究と臨床への応用、 医薬品、医療材料、医用工学機器などの開発、褥瘡に悩む患者さんや家族への啓発・ 心のケアなどに貢献すること
特定教員	2名



2023.4.1

寄附についての詳細は、こちらをご参照ください。
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/donation/>

財務情報

貸借対照表の概要

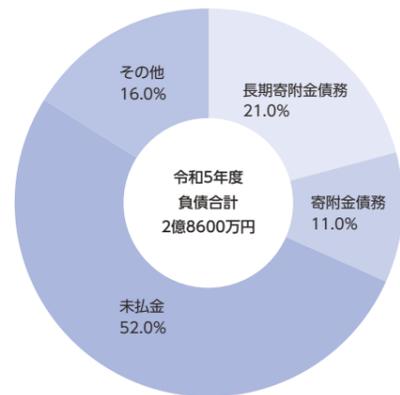
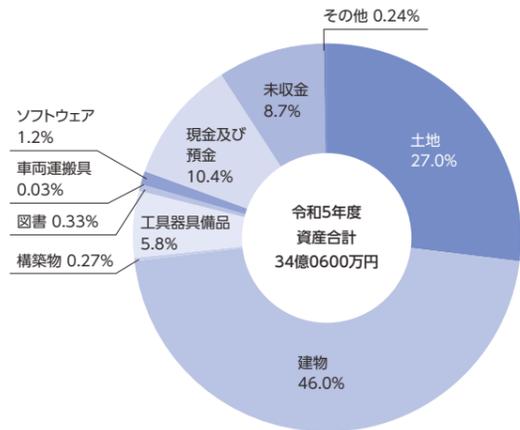
(単位:百万円)

資産の部	令和4年度	令和5年度	増減
土地	920	920	0
建物	—	1,567	1,567
構築物	1	9	8
工具器具備品	277	197	△80
図書	10	11	1
車両運搬具	1	1	0
ソフトウェア	60	39	△21
現金及び預金	285	355	70
未収金	263	296	33
その他	7	8	1
資産合計	1,827	3,406	1,579

(単位:百万円)

負債の部	令和4年度	令和5年度	増減
資産見返負債	212	—	△212
長期寄附金債務	—	60	60
寄附金債務	93	31	△62
未払金	205	149	△56
その他	36	46	10
負債合計	548	286	△262
純資産の部	令和4年度	令和5年度	増減
資本金	920	2,640	1,720
資本剰余金	129	△52	△181
利益剰余金	117	230	113
当期末処分利益	112	302	190
純資産合計	1,279	3,120	1,841
負債・純資産合計	1,827	3,406	1,579

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

	令和4年度	令和5年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	30	46	16
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	0	23	23
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
IV 資金増加額(又は減少額)	31	70	39
V 資金期首残高	253	285	32
VI 資金期末残高	285	355	70

※金額は百万円未満を切捨している。

損益計算書の概要

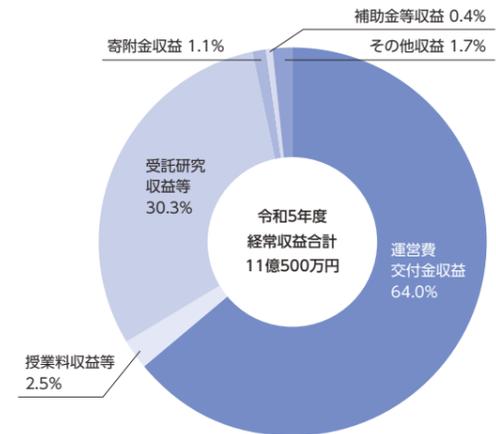
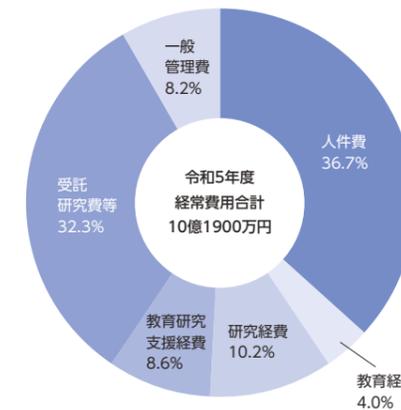
(単位:百万円)

	令和4年度	令和5年度	増減
経常費用			
人件費	300	374	74
教育経費	41	41	0
研究経費	103	103	0
教育研究支援経費	105	87	△18
受託研究費等	307	329	22
一般管理費	89	83	△6
経常費用合計	947	1,019	72
臨時損失	—	0	0
計	947	1,019	72

(単位:百万円)

	令和4年度	令和5年度	増減
経常収益			
運営費交付金収益	596	707	111
授業料収益等	22	27	5
受託研究収益等	313	334	21
寄附金収益	11	12	1
施設費収益	18	—	△18
補助金等収益	—	4	4
その他収益	92	18	△74
経常収益合計	1,055	1,105	50
臨時収益	—	216	216
目的積立金取崩	4	—	△4
計	1,059	1,321	262
当期総利益	112	302	190

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



利益の処分に関する書類

(単位:百万円)

	令和4年度
I 当期末処分利益(当期総利益)	112
II 利益処分別	
(1) 積立金	44
(2) 目的積立金	67

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



■ 学生ホール

陽光あふれる広々とした空間で、学外の方々との交流に最適です。

キャンパス紹介

■ 講義室2



授業で主に使用する教室です。

■ 演習室2



小人数の演習や授業で使用されている、使い勝手の良い教室です。

■ 図書館



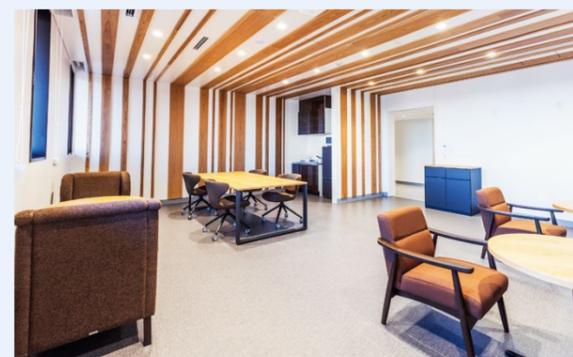
図書館の利用は24時間可能で、本の貸出・返却は無人で行われています。本学は電子ジャーナルが充実しており、学生や教員は主にそちらを使用している関係で、図書館には、基本的な書籍・資料を配架しています。

■ 院生室



院生一人ひとりに机を用意しています。授業の合間や特別研究で使われています。

■ ラウンジ



各階に、歓談や飲食が可能なラウンジを設けています。

大学見取図はこちらからご覧になれます。
<https://camel3.com/cms/files/s-sph/MASTER/0500/GaQJ94Kf.png>

基礎データ

学生数 (2023年5月1日現在)

社会健康医学研究科		収容定員	在学生数
修士課程	1年(2023年度入学者)	10人	16人
	2年(2022年度入学者)	10人	16人
小計		20人	32人
博士課程	1年(2023年度入学者)	2人	6人
	小計	22人	38人

教職員数 (2023年5月1日現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	教員計	事務職員	合計
1	1※	14	7	4	26	17	43

※副学長は非常勤のため、教員計からは除いている。

修了者数及び進学・就職等の状況

修了時期	修了者数	所属先で勤務継続			就職希望者	就職決定者	就職内定率(%)	本学の博士後期課程に進学
		医療機関	企業等	小計				
2023年3月	15	12	3	15	0	—	—	4
2024年3月	17	6	8	14	3	3	100	3

論文件数等 (筆頭・最終・責任著者、代表発表者)

査読付原著論文(筆頭・最終・責任著者)	28報
総説(筆頭著者)	9報
国際学会発表等(代表発表者)	6件
国内学会総会発表等(代表発表者)	29件
計	72件

筆頭著者や代表発表者等以外の論文等発表実績

査読付原著論文(筆頭・最終・責任著者以外)	70報
総説(筆頭著者以外)	1報
国際学会発表等(共同発表者)	2件
国内学会総会発表等(共同発表者)	53件

※本学の所属を明記していない論文等は除きます。
 ※学会発表は、ポスター発表を除きます。

2023年度 論文及び学会等発表一覧

原著論文（査読有り）

【筆頭著者・責任著者・最終著者】

1. **Sato Y**, Taki M, **Kojimahara N**. A Cohort Study on the Use of Commercial Induction Heating Cookers by Pregnant Women and the Birth Weight of Their Infants. RSL. 2024;5. doi:10.46620/23-0007

2. Miyakoshi A, **Nakatani E**, Kaneda H, Hawke P, **Sasaki H**, **Urano T**, **Miyachi Y**. Administration of Tranexamic Acid After Burr Hole Craniotomy Reduced Postoperative Recurrence of Chronic Subdural Hematoma in a Japanese Regional Population. Neurosurgery. 2023;93(5):1160-1167. doi:10.1227/neu.0000000000002558

3. **Sato Y**, **Kojimahara N**. Association between the Use of Induction Heating Cookers and Delivery Outcomes in Pregnant Women: An Internet-Based Cohort Study. Environmental Health Insights. Published online October 2023.

4. **Tabara Y**, Okada Y, Ochi M, Ohyagi Y, Igase M. Associations between adiponectin and leptin levels and skeletal muscle mass and myosteatosis in older adults: The Shimanami Health Promoting Program study. Geriatrics Gerontology Int. 2023;23(6):444-449. doi:10.1111/ggi.14582

5. Fujimoto Y, **Nakatani E**, **Tabara Y**. Comorbidities associated with 2-year mortality in adults with cerebral palsy in Japan. Develop Med Child Neuro. Published online July 5, 2023:dmcn.15705. doi:10.1111/dmcn.15705

6. Takeshita M, **Tabara Y**, **Setoh K**, Nagao K, Imaizumi A, Kageyama Y, Matsuda F; Nagahama study group. Development of a plasma-free amino acid-based risk score for the incidence of cardiovascular diseases in a general population: The Nagahama study. Clinical Nutrition. 2023;42(12):2512-2519. doi:10.1016/j.clnu.2023.10.024

7. Ikka T, **Hatta T**, Saito Y, Fujita M. Does the Act on the Safety of Regenerative Medicine in Japan ensure “safety”? Implications of low adverse event reporting. Stem Cell Reports. 2023;18(12):2297-2299. doi:10.1016/j.stemcr.2023.10.012

8. Yoshioka R, **Yamamoto S**, **Nakatani E**. Effectiveness of suvorexant versus benzodiazepine receptor agonist sleep drugs in reducing the risk of hip fracture: Findings from a regional population-based cohort study. Yasui-Furukori N, ed. PLoS ONE. 2023;18(4):e0284726. doi:10.1371/journal.pone.0284726

9. **Mori H**, Nakane A, Tohara H, Nakayama T. Evaluation of preventive care for swallowing difficulty through policy changes in Japanese long-term care insurance: analysis of a nationwide claims dataset for long-term care insurance. BMC Health Serv Res. 2023;23(1):1053. doi:10.1186/s12913-023-09990-8

10. **Sasaki H**, Pak K, Mezawa H, Yamamoto-Hanada K, Ishitsuka K, Konishi M, Nishizato M, Sato M, Saito-Abe M, Yang L, Ohya Y, the Japan Environment, Children’s Study (JECS) Group. Health-related quality of life of mothers and developmental characteristics of very low birth weight children at 2.5 years of age: results from the Japan Environment and Children’s Study (JECS). Health Qual Life Outcomes. 2023;21(1):68. doi:10.1186/s12955-023-02156-4

11. Hashizume H, **Nakatani E**, **Sasaki H**, **Miyachi Y**. Hydrochlorothiazide increases risk of nonmelanoma skin cancer in an elderly Japanese cohort with hypertension: The Shizuoka study. JAAD International. 2023;12:49-57. doi:10.1016/j.jdin.2023.04.007

12. Funaki D, Kaneda H, Miyakoshi A, Saito K, **Sasaki H**, **Nakatani E**. Identification of subgroups within a Japanese older adult population for whom statin therapy is effective in reducing mortality. Behnouth AH, ed. PLoS ONE. 2023;18(12):e0295052. doi:10.1371/journal.pone.0295052

13. **Kojimahara N**, Lee YH, Lee AK, Bae S, Kwon HJ, Ha M, **Sato Y**, Taki M, Wiart J, Langer CE, Cardis E. Impact of Radiofrequency Exposure from Mobile Phones on the Risk of Developing Brain Tumors in Korean and Japanese Adolescents: A MOBI-Kids Case-Control Study. Journal of Epidemiology. Published online June 2023:JE20230005. doi:10.2188/jea.JE20230005

14. Imaichi Y, **Nakatani E**, Fukutomi Y, **Kuriyama N**, **Mori K**, **Sugawara A**. Leukotriene antagonists reduce epileptic seizures-related hospitalization in older adult populations with allergic rhinitis or asthma: A population-based cohort study using the Shizuoka Kokuho database: The Shizuoka Study. Epilepsia Open. Published online October 25, 2023:epi4.12852. doi:10.1002/epi4.12852

15. **Kojimahara N**, **Sato Y**, **Sato Y**, Kojimahara F, Takahashi K, **Nakatani E**. Longitudinal analysis of long-term outcomes of colorectal cancer after laparotomy and laparoscopy surgery: The Shizuoka study. Azadnajafabad S, ed. PLoS ONE. 2023;18(11):e0294589. doi:10.1371/journal.pone.0294589

16. Komukai K, Sugita S, **Fujimoto S**. Publication Bias and Selective Outcome Reporting in Randomized Controlled Trials Related to Rehabilitation: A Literature Review. Archives of Physical Medicine and Rehabilitation. Published online June 2023:S0003999323003623. doi:10.1016/j.apmr.2023.06.006

17. Ubukata N, **Nakatani E**, Hashizume H, **Sasaki H**, **Miyachi Y**. Risk factors and drugs that trigger the onset of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis: A population-based cohort study using the Shizuoka Kokuho database. JAAD International. 2023;11:24-32. doi:10.1016/j.jdin.2022.12.002

18. Miyakoshi A, Ubukata N, Miyake H, Shoji-Asahina A, Dote H, Ohata E, Funaki D, Ichikawa Y, Imaichi Y, Oshima M, Hawke P, **Nakatani E**. Risk factors for glioblastoma in adults in Japan: an exploratory cohort study based on the Shizuoka Kokuho Database, the Shizuoka study. J Neurooncol. 2024;166(2):341-349. doi:10.1007/s11060-024-04566-w

19. Shoji-Asahina A, **Nakatani E**, Imaichi Y, Ohata E, Oshima M, Miyakoshi A, Miyake H, Ichikawa Y, Dote H, Ubukata N, Funaki D, **Urano T**. Risk factors, treatment and survival rates of late-onset acquired haemophilia A: A cohort study from the Shizuoka Kokuho Database. Haemophilia. 2023;29(3):799-808. doi:10.1111/hae.14793

20. **Tabara Y**, Matsumoto T, Murase K, **Setoh K**, Kawaguchi T, Nakayama T, Wakamura T, Hirai T, Chin K, Matsuda F. Sleep-related factors associated with masked hypertension: the Nagahama study. Journal of Hypertension. 2023;41(8):1298-1305. doi:10.1097/HJH.00000000000003466

21. Ohata E, **Nakatani E**, Kaneda H, Fujimoto Y, Tanaka K, **Takagi A**. Use of the Shizuoka Hip Fracture Prognostic Score (SHIPS) to Predict Long-Term Mortality in Patients With Hip Fracture in Japan: A Cohort Study Using the Shizuoka Kokuho Database. JBMR Plus. 2023;7(6):e10743. doi:10.1002/jbm4.10743

22. **宮地良樹**. Dermatological View 私とメトロナゾール. Visual Dermatology. 2023;22(5):490-193.

23. **高山智子**, 齋藤弓子, 奥野順子, 花出正美, 高橋朋子, 小郷祐子, 若尾文彦. がん専門相談員の診療ガイドラインの利用状況と利用に及ぼす背景要因の検討. 医療の質・安全学会誌. 2023;18(4).

24. 岩城孝行, 梅村和夫, 鈴木優子, **浦野哲盟**. トータル PAI-1 の測定と結果の解釈 特に PAI-1 低値の扱い. 日本血栓止血学会誌. 2023;34(3):304-309.

25. 鈴木優子, **浦野哲盟**. リアルタイムイメージング 線溶反応を視て評価する. 日本血栓止血学会誌. 2023;34(3):338-344.

26. **浦野哲盟**. 鈴木優子. 線溶系検査に求められるもの. 日本血栓止血学会誌. 2023;34(3):286-291.

27. **浦野哲盟**. 鈴木優子, 岩城孝行. 線溶時間検査. 日本血栓止血学会誌. 2023;34(3):292-298.

28. 水口雄貴, 佐藤卓, **末岡浩**. 特集 図解 産婦人科医のための臨床遺伝学必修知識 II. 着床前遺伝学的検査における遺伝子検査と集められる情報. 産婦人科の実際. 2023;72(9):885-891.

【その他】

1. Yaita S, Tago M, Katsuki NE, **Nakatani E**, Oda Y, Yamashita S, Tokushima M, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita S ichi. A Simple and Accurate Model for Predicting Fall Injuries in Hospitalized Patients: Insights from a Retrospective Observational Study in Japan. Med Sci Monit. 2023;29. doi:10.12659/MSM.941252

2. Kamei Y, Kobayashi E, **Nakatani E**, Shiomi M, Sawada M, Kakuda M, Toda A, Nakagawa S, Hiramatsu K, Kinose Y, Takiuchi T, Miyoshi A, Kodama M, Hashimoto K, Kimura T, Ueda Y, Sawada K, Kimura T. A single institution’s experience with minimally invasive surgery for ovarian cancer, and a systematic meta-analysis of the literature. Int J Clin Oncol. 2023;28(6):794-803. doi:10.1007/s10147-023-02320-2

3. Nomura T, Kawai M, Fukuma Y, Koike Y, Ozaki S, Iwasaki M, **Yamamoto S**, Takamatsu K, Okamura H, Arai M, Ootani S, Iwata H, Saji S. Alcohol consumption and breast cancer prognosis after breast cancer diagnosis: a systematic review and meta-analysis of the Japanese Breast Cancer Society Clinical Practice Guideline, 2022 edition. Breast Cancer. 2023;30(4):519-530. doi:10.1007/s12282-023-01455-4

4. Hisamatsu T, **Tabara Y**, Kadota A, Torii S, Kondo K, Yano Y, Shiino A, Nozaki K, Okamura T, Ueshima H, Miura K, the SESA Research Group. Alcohol Consumption and Cerebral Small- and Large-Vessel Diseases: A Mendelian Randomization Analysis. JAT. Published online August 2023:64222. doi:10.5551/jat.64222

5. Sano K, Terauchi R, Fukai K, Furuya Y, Nakazawa S, **Kojimahara N**, Hoshi K, Nakano T, Toyota A, Tatemichi M. Association Between Alcohol Consumption Patterns and Glaucoma in Japan. Journal of Glaucoma. 2023;32(11):968-975. doi:10.1097/IJG.00000000000002308

6. Nakano W, Ozaki E, Kato M, Tsukamoto T, Ono S, Tomida S, **Kuriyama N**, Koyama T. Association between bone health and dynapenic obesity in postmenopausal women. Geriatrics Gerontology Int. 2024;24(4):378-384. doi:10.1111/ggi.14849

7. Ishitsuka K, Yamamoto-Hanada K, Mezawa H, Saito-Abe M, **Sasaki H**, Nishizato M, Sato M, Ohya Y, Japan Environment and Children’s Study Group. Association between pre-pregnancy weight status and dietary patterns during pregnancy: results from the Japan Environment and Children’s Study. Public Health Nutr. 2023;26(9):1807-1814. doi:10.1017/S1368980023000770

8. Terada S, Matsumoto H, Nishi K, Kogo M, Nomura N, Tashima N, Morimoto C, Sunadome H, Nagasaki T, Oguma T, Nakatsuka Y, Murase K, Kawaguchi T, **Tabara Y**, Sonomura K, Matsuda F, Chin K, Hirai T. Association of lower plasma citric acid with prolonged cough: the Nagahama study. Sci Rep. 2023;13(1):13921. doi:10.1038/s41598-023-40878-z

9. Nagasaki T, Miyake M, Sato S, Murase K, Kawaguchi T, Matsumoto T, Nakatsuka Y, Mori Y, Ikeda HO, Sunadome H, Hamada S, Takahashi N, Togawa J, Kanai O, Uji S, Wakamura T, **Tabara Y**, Tsujikawa A, Matsuda F, Hirai T, Chin K; Nagahama Study Group Executive Committee members. Associations between Nocturnal Hypoxemia and Retinal Nerve Fiber Layer Thinning: The Nagahama Study. Annals ATS. 2024;21(4):644-650. doi:10.1513/AnnalsATS.202304-3550C

10. Sunadome H, Murase K, **Tabara Y**, Matsumoto T, Minami T, Kanai O, Nagasaki T, Takahashi N, Hamada S, Tanizawa K, Togawa J, Uji S, Wakamura T, Komenami N, **Setoh K**, Kawaguchi T, Morita S, Takahashi Y, Nakayama T, Hirai T, Sato S, Matsuda F, Chin K. Associations between Sleep-Disordered Breathing and Serum Uric Acid and Their Sex Differences: The Nagahama Study. Nutrients. 2023;15(19):4237. doi:10.3390/nu15194237

11. Canseco-Alba A, Tabata K, Momoki Y, Tabassum T, **Horiuchi Y**, Arinami T, Onaivi ES, Ishiguro H. Cannabinoid CB2 receptors and hypersensitivity to methamphetamine: Vulnerability to schizophrenia. Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry. 2024;130:110924. doi:10.1016/j.pnpb.2023.110924

12. Toyama M, **Mori H**, Kuriyama A, Sano M, Imura H, Nishimura M, Nakayama T. Challenges of using body bags for COVID-19 deaths from the healthcare provider perspective – a qualitative study. BMJ Open Qual. 2024;13(1):e002548. doi:10.1136/bmjopen-2023-002548

13. Oride T, Sawada K, Shimizu A, Kinose Y, Takiuchi T, Kodama M, Hashimoto K, Kobayashi E, **Nakatani E**, Kimura T. Clinical trial assessing the safety of edoxaban with concomitant chemotherapy in patients with gynecological cancer-associated thrombosis (EGCAT study). Thrombosis J. 2023;21(1):57. doi:10.1186/s12959-023-00500-8

14. Hisatome I, Hamada T, Mizuta E, Ohtahara A, Kuwabara M, Ogino K, Ninomiya H, **Sato Y**, Nakayama T, Yamanaka H. Comparison of Recommendations Made by Committee Members with and without Financial Conflict of Interest on Japanese Guideline of Treatment of Hyperuricemia and Gout, Third Edition. JMA J. 2023;6(4):523-526. doi:10.31662/jmaj.2023-0067

15. Nakae A, Ozaki E, **Kuriyama N**, Tomida S, Koyama T. Copeptin is associated with microalbuminuria and renal function in the general Japanese population. Endocr J. 2023;70(8):797-804. doi:10.1507/endocrj.EJ23-0005

16. Nakamura K, Kaya M, Yanagisawa Y, Yamamoto K, Takayashiki N, Ukita H, Nagura M, Sugie K, Kitajima M, Hirano K, Ishida H, Onoda C, Kobayashi Y, **Nakatani E**, Odagiri K, Suzuki T. Denosumab-induced hypocalcemia in patients with solid tumors and renal dysfunction: a multicenter, retrospective, observational study. BMC Cancer. 2024;24(1):218. doi:10.1186/s12885-024-11942-2

17. Suzuki Y, Iwamoto T, Uno M, Hatono M, Kajiwara Y, Takahashi Y, Kochi M, Shien T, Kikawa Y, Uemura Y, Hagiwara Y, **Yamamoto S**, Taira N, Doihara H, Toyooka S. Development and validation of a symptom illustration scale from the patient-reported outcome common terminology criteria for adverse events for patients with breast cancer. Breast Cancer. 2023;30(5):856-868. doi:10.1007/s12282-023-01480-3

18. Takahashi H, Takeda S, **Tanaka Y**, Shibata R, Ito H, Kurahashi S, Mitsuya S, Murakami H. Effectiveness of Specific Single-Use Incisional Negative Pressure Wound Therapy (PICO System) After Major Lower Extremity Amputation. The International Journal of Lower Extremity Wounds. Published online December 13, 2023:15347346231221116. doi:10.1177/15347346231221116

19. Matsushita A, **Nakatani E**, Shibasaki C, Tanabe S, Iwasaki N, Okamura T, Nozaki A, Aoshima S, Takahashi R, Watanabe M, Shimada T. Effectiveness of weight-loss prevention with continual nutrition counseling in postoperative outpatients with stage IA and IB gastric cancer. Chen RJ, ed. PLoS ONE. 2023;18(10):e0292920. doi:10.1371/journal.pone.0292920

20. Hamada Y, **Nakatani E**, Watai K, Iwata M, Nakamura Y, Ryu K, Kamide Y, Sekiya K, Fukutomi Y. Effects of raw seafood on the risk of hypersensitivity reaction recurrence in patients with an Anisakis allergy: A retrospective observational study in Japan. Allergology International. Published online August 2023:S1323893023000783. doi:10.1016/j.alit.2023.08.002

21. Umemura Y, Yamakawa K, **Tanaka Y**, Yoshimura J, Ogura H, Fujimi S. Efficacy of Carbapenems Compared With Noncarbapenem Broad-Spectrum Beta-Lactam Antibiotics as Initial Antibiotic Therapy Against Sepsis: A Nationwide Observational Study*. Critical Care Medicine. 2023;51(9):1210-1221. doi:10.1097/CCM.00000000000005932

22. Umemiya M, Horikawa N, Kanai A, Saeki A, Ida K, Makio S, Yoshida T, Tsuji M, Gou R, Tani H, **Usui T**, Kosaka K. Endometrial Cancer Diagnosed at an Early Stage during Lynch Syndrome Surveillance: A Case Report. Case Rep Oncol. Published online August 16, 2023:634-639. doi:10.1159/000531837

23. Yanagita Y, Arizono S, Yokomura K, Ito K, Machiguchi H, Tawara Y, Katagiri N, Iida Y, **Nakatani E**, Tanaka T, Kozu R. Enhancing exercise tolerance in interstitial lung disease with high-flow nasal cannula oxygen therapy: A randomized crossover trial. Respirology. 2024;29(6):497-504. doi:10.1111/resp.14684

24. Matsunuma R, Sato S, Chan JY, **Kinoshita K**, Taku K, Yamaguchi K, Hayami R, Arai K, Suzuki M, Tsumezumi M. Enrichment of Immune-Related Genes in Aggressive Primary Breast Angiosarcoma: A Case Report. Case Rep Oncol. Published online July 3, 2023:461-470. doi:10.1159/000531490

25. Tashima N, Matsumoto H, Nishi K, Terada S, Kogo M, Nomura N, Morimoto C, Sunadome H, Nagasaki T, Oguma T, Nakatsuka Y, Murase K, Kawaguchi T, **Tabara Y**, Chin K, Sonomura K, Matsuda F, Hirai T. Evaluation of elevated plasma fatty acids as relevant factors for adult-onset asthma: The Nagahama Study. Allergology International. Published online May 2023:S1323893023000448. doi:10.1016/j.alit.2023.04.005

26. Kuwabara M, Fukuuchi T, Aoki Y, Mizuta E, Ouchi M, Kurajoh M, Maruhashi T, Tanaka A, Morikawa N, Nishimiyama K, Akashi N, **Tanaka Y**, Otani N, Morita M, Miyata H, Takada T, Tsutani H, Ogino K, Ichida K, Hisatome I, Abe K. Exploring the Multifaceted Nexus of Uric Acid and Health: A Review of Recent Studies on Diverse Diseases. Biomolecules. 2023;13(10):1519. doi:10.3390/biom13101519

27. Koyanagi YN, Nakatochi M, Namba S, Oze I, Charvat H, Narita A, Kawaguchi T, Ikezaki H, Hishida A, Hara M, Takezaki T, Koyama T, Nakamura Y, Suzuki S, Katsura-Kamano S, Kuriki K, Nakamura Y, Takeuchi K, Hozawa A, **Kinoshita K**, Sutoh Y, Tanno K, Shimizu A, Ito H, Kasugai Y, Kawakatsu Y, Taniyama Y, Tajika M, Shimizu Y, Suzuki E, Hosoeno Y, Imoto I, **Tabara Y**, Takahashi M, **Setoh K**, The BioBank Japan Project, Matsuda K, Nakano S, Goto A, Katagiri R, Yamaji T, Sawada N, Tsugane S, Wakai K, Yamamoto M, Sasaki M, Matsuda F, Okada Y, Iwasaki M, Brennan P, Matsuo K. Genetic architecture of alcohol consumption identified by a genotype-stratified GWAS and impact on esophageal cancer risk in Japanese people. Sci Adv. 2024;10(4):eade2780. doi:10.1126/sciadv.ade2780

28. Suzuki K, Hatzikotoulas K, Southam L, Taylor HJ, Yin X, Lorenz KM, Mandla R, Huerta-Chagoya A, Melloni GEM, Kanoni S, Rayner NW, Bocher O, Arruda AL, Sonehara K, Namba S, Lee SSK, Preuss MH, Petty LE, Schroeder P, Vanderwerff B, Kals M, Bragg F, Lin K, Guo X, Zhang W, Yao J, Kim YJ, Graff M, Takeuchi F, Nao J, Lamri A, Nakatochi M, Moon S, Scott RA, Cook JP, Lee JJ, Pan I, Taliun D, Parra EJ, Chai JF, Bielak LF, **Tabara Y**, Hai Y, Thorleifsson G, Grarup N, Sofer T, Wuttke M, Sarnowski C, Gieger C, Nousseau D, Trompet S, Kwak SH, Long J, Sun M, Tong L, Chen WM, Nongmaithem SS, Noordam R, Lim VJY, Tam CHT, Joo YY, Chen CH, Raffield LM, Prins BP, Nicolas A, Yanek LR, Chen G, Brody JA, Kabagambe E, An P, Xiang AH, Choi HS, Cade BE, Tan J, Broadaway KA, Williamson A, Kamali Z, Cui J, Thangam M, Adair LS, Adeyemo A, Aguilar-Salinas CA, Ahluwalia TS, Anand SS, Bertoni A, Bork-Jensen J, Brandslund I, Buchanan TA, Burant CF, Butterworth AS, Canouiil M, Chan JCN, Chang LC, Chee ML, Chen J, Chen SH, Chen YT, Chen Z, et al. Genetic drivers of heterogeneity in type 2 diabetes pathophysiology. Nature. 2024;627(8003):347-357. doi:10.1038/s41586-024-07019-6

29. Akatsuka K, **Hatta T**, Sawai T, Fujita M. Genome editing of human embryos for research purposes: Japanese law and expert attitudes. Front Genet. 2023;14:1205067. doi:10.3389/fgene.2023.1205067

30. Duperron MG, Knol MJ, Le Grand Q, Evans TE, Mishra A, Tsuchida A, Roshchupkin G, Konuma T, Trégoüët DA, Romero JR, Frenzel S, Luciano M, Hofer E, Bourgeois M, Ducker ND, Delgado P, Hiral S, Tankard RM, Dubost F, Shin J, Saba Y, Armstrong NJ, Bordes C, Bastin ME, Beiser A, Brodaty H, Bulow R, Carrera C, Chen C, Cheng CY, Deary IJ, Gampawar PG, Himali JJ, Jiang J, Kawaguchi T, Li S, Macalli M, Marquis P, Morris Z, Muñoz Maniega S, Miyamoto S, Okawa M, Paradise M, Parva P, Rundek T, Sargurupremraj M, Schilling S, **Setoh K**, Soukariéh O, **Tabara Y**, Teumer A, Thalammuthu A, Trollor JN, Valdés Hernández MC, Vernooij MW, Völker U, Wittfeld K, Wong TY, Wright MJ, Zhang J, Zhao W, Zhu YC, Schmidt H, Sachdev PS, Wen W, Yoshida K, Joutel A, Satizabal CL, Sacco RL, Bourque G, the CHARGE consortium, Le Grand Q, Lathrop M, Paus T, Fernandez-Cadenas I, Yang Q, Mazoyer B, Boutinaud P, Okada Y, Grabe HJ, Mather KA, Schmidt R, Joliot M, Ikram MA, Matsuda F, Tzourio C, Wardlaw JM, Seshadri S, Adams HHHH, Debette S. Genomics of perivascular space burden unravels early mechanisms of cerebral small vessel disease. Nat Med. 2023;29(4):950-962. doi:10.1038/s41591-023-02268-w

31. Takeishi K, **Yamamoto S**, **Sato Y**, Takahashi O, Fujita N, Abe K, Fukui Y, Kameda M, Uchida T, Nagasaka Y. Hemolysis Proceeds Urine Color Change in Patients Undergoing Open-Heart Surgery on Cardiopulmonary Bypass. Cureus. Published online December 5, 2023. doi:10.7759/cureus.49971

32. Sawai T, **Hatta T**, Akatsuka K, Fujita M. Human genome editing in clinical applications: Japanese law and expert attitudes. Front Genet. 2023;14:1205092. doi:10.3389/fgene.2023.1205092

33. Nakatsuka Y, Murase K, Sonomura K, **Tabara Y**, Nagasaki T, Hamada S, Matsumoto T, Minami T, Kanai O, Takeyama H, Sunadome H, Takahashi N, Nakamoto I, Tanizawa K, Handa T, Sato TA, Komenami N, Wakamura T, Morita S, Takeuchi O, Nakayama T, Hirai T, Kamatani Y, Matsuda F, Chin K. Hyperfructosemia in sleep disordered breathing: metabolome analysis of Nagahama study. Sci Rep. 2023;13(1):12735. doi:10.1038/s41598-023-40002-1

34. Nishida T, Kusuda S, Mori R, Toyoshima K, Mitsuhashi H, **Sasaki H**, Yonemoto N, Kono Y, Uchiyama A, Fujimura M. Impact of comprehensive quality improvement program on outcomes in very-low-birth-weight infants: A cluster-randomized controlled trial in Japan. Early Human Development. 2024;190:105947. doi:10.1016/j.earlhumdev.2024.105947

35. Miyashita K, Hozumi H, Furuhashi K, **Nakatani E**, Inoue Y, Yasui H, Suzuki Y, Karayama M, Enomoto N, Fujisawa T, Inui N, Ojima T, Suda T. Impact of preexisting interstitial lung disease on mortality in COVID-19 patients from the early pandemic to the delta variant epidemic: a nationwide population-based study. Respir Res. 2024;25(1):95. doi:10.1186/s12931-024-02723-3

36. Shintani T, Obara H, Matsubara K, Hayashi M, Kita H, Ono S, Watada S, Kikuchi N, Sekimoto Y, Torizaki Y, Asami A, Fujii T, Hayashi K, Harada H, Fujimura N, Hosokawa K, **Nakatani E**, Kitagawa Y. Impact of wound management strategies after revascularization for chronic limb-threatening ischemia. Journal of Vascular Surgery. 2024;79(3):632-641.e3. doi:10.1016/j.jvs.2023.11.003

37. Morita Y, Kamatani Y, Ito H, Ikegawa S, Kawaguchi T, Kawaguchi S, Takahashi M, Terao C, Ito S, Nishitani K, Nakamura S, Kuriyama S, **Tabara Y**, Matsuda F, Matsuda S, on behalf of the Nagahama study group. Improved genetic prediction of the risk of knee osteoarthritis using the risk factor-based polygenic score. Arthritis Res Ther. 2023;25(1):103. doi:10.1186/s13075-023-03082-y

38. Nishi K, Nagasaki T, Matsumoto H, Oguma T, Terada S, Nomura N, Kogo M, Tashima N, Sunadome H, Murase K, Matsumoto T, Kawaguchi T, **Tabara Y**, Matsuda F, Sato S, Chin K, Hirai T. Increased blood eosinophils and airflow obstruction as new-onset asthma predictors in the elderly: The Nagahama study. Allergology International. 2023;73(2):236-242. doi:10.1016/j.alit.2023.11.002

39. Yoshida A, Takata Y, **Tabara Y**, Maruyama K, Inoue S, Osawa H, Sugiyama T. Interaction effect between low birthweight and resistin gene rs1862513 variant on insulin resistance and type 2 diabetes mellitus in adulthood: Toon Genome Study. J of Diabetes Invest. Published online February 29, 2024:jd.14163. doi:10.1111/jdi.14163

40. Arimura K, Hiroshima K, Nagashima Y, Nakazawa T, Ogihara A, Orimo M, **Sato Y**, Katsura H, Kanzaki M, Kondo M, Tagaya E. LAG3 is an independent prognostic biomarker and potential target for immune checkpoint inhibitors in malignant pleural mesothelioma: a retrospective study. BMC Cancer. 2023;23(1):1206. doi:10.1186/s12885-023-11636-1

41. Fukai K, Furuya Y, Nakazawa S, **Kojimahara N**, Hoshi K, Toyota A, Tatemichi M. Length of employment in workplaces handling hazardous chemicals and risk of cancer among Japanese men. Occup Environ Med. 2023;80(8):431-438. doi:10.1136/oemed-2022-108775

2023年度 論文及び学会等発表一覧

42. Iwamoto T, Kajiwara Y, Kawada K, Takabatake D, Miyoshi Y, Kubo S, Suzuki Y, Yamamoto M, Ogasawara Y, Hatono M, Yoshitomi S, Hara K, Sasahara A, Ohsumi S, Ikeda M, Doihara H, Mizota Y, **Yamamoto S**, Taira N. Long-Term Physical Activity and Body Composition After Exercise and Educational Programs for Breast Cancer: A Randomized Controlled Trial From the Setouchi Breast Project-10. *Clinical Breast Cancer*. Published online September 2023;S1526820923002355. doi:10.1016/j.clbc.2023.09.008

43. Kogo M, Sato S, Muro S, Matsumoto H, Nomura N, Oguma T, Sunadome H, Nagasaki T, Murase K, Kawaguchi T, **Tabara Y**, Matsuda F, Chin K, Hirai T. Longitudinal Changes and Association of Respiratory Symptoms with Preserved Ratio Impaired Spirometry (PRISm): The Nagahama Study. *Annals ATS*. 2023;20(11):1578-1586. doi:10.1513/AnnalsATS.202301-0500C

44. Futakawa K, Matsumura K, Tsuchida A, Konishi M, **Sasaki H**, Mezawa H, Yamamoto-Hanada K, Inadera H, Hasegawa T, the Japan Environment and Children's Study (JECS) Group, Kamijima M, Yamazaki S, Ohya Y, Kishi R, Yaegashi N, Hashimoto K, Mori C, Ito S, Yamagata Z, Nakayama T, Sobue T, Shima M, Nakamura H, Suganuma N, Kusuhara K, Katoh T. Longitudinal study of the relationship between number of prior miscarriages or stillbirths and changes in quality of life of pregnant women: the Japan Environment and Children's Study (JECS). *BMC Pregnancy Childbirth*. 2023;23(1):297. doi:10.1186/s12884-023-05578-6

45. Amano S, Shimazaki J, Yokoi N, Hori Y, Arita R, Committee for Meibomian Gland Dysfunction Clinical Practice Guidelines, Obata H, Kawashima M, Koh S, Suzuki T, Suzuki T, Yamaguchi M, Yamada M, Itokawa T, Iwashita H, **Usui T**, Uchino M, Oya F, Okajima Y, Kaido M, Kakisu K, Kaji Y, Kato H, Goto E, Komuro A, Sakane Y, Shigeyasu C, Sumazaki S, Den S, Nagahara Y, Hayashi Y, Hirayama M, Fukui M, Fukuoka S, Hosotani Y, Morishige N, **Sato Y**, Yagami A, Shiraiishi A, Kamiya K, Noda M, Soma T, Japanese Ophthalmological Society, Japan Cornea Society, Japan Dry Eye Society, Meibomian Gland Dysfunction Clinical Practice Guidelines. *Jpn J Ophthalmol*. 2023;67(4):448-539. doi:10.1007/s10384-023-00995-8

46. Kegoya Y, Otani Y, Inoue Y, Mizuta R, Higaki F, Washio K, Koizumi S, Kurozumi K, Ishida J, Fujii K, Yamamoto N, **Tanaka Y**, Date I. Midline invasion predicts poor prognosis in diffuse hemispheric glioma, H3 G34-mutant: an individual participant data review. *J Neurooncol*. 2024;167(1):201-210. doi:10.1007/s11060-024-04587-5

47. Miyake H, Nakano R, **Yamamoto S**, Isayama T, **Sasaki H**, on behalf of the Neonatal Research Network of Japan. Mortality and neurodevelopmental outcomes in very low birth weight infants with esophageal atresia. *Pediatr Surg Int*. 2023;39(1):294. doi:10.1007/s00383-023-05579-8

48. **Tabara Y**, Okada Y, Ochi M, Ohyagi Y, Igase M. One-leg standing time is a simple measure for loss of skeletal muscle mass and fat deposition in muscle: the J-SHIPP study. *Aging Clin Exp Res*. 2024;36(1):7. doi:10.1007/s40520-023-02665-8

49. Hadate T, Kawamura R, **Tabara Y**, Maruyama K, Takakado M, Ikeda Y, Ohashi J, Takata Y, Saito I, Osawa H. Positive association between serum resistin and smoking was strongest in homozygotes of the G-A haplotype at c.-420 C>G and c.-358 G>A in RETN promoter: the Toon Genome Study. *J Hum Genet*. 2023;68(11):745-750. doi:10.1038/s10038-023-01176-8

50. Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T, Shibuya K, Nakamura K, Kano H, Otani R, Morooka M, Ogushi M, Nagashima K, **Sato Y**, **Kurivama N**, Kuwabara S. Prevalence and clinical profiles of anti-myelin-associated glycoprotein neuropathy in Japan: A nationwide survey study of 133 patients. *Euro J of Neurology*. 2024;31(5):e16249. doi:10.1111/ene.16249

51. Aotsuka Y, Misawa S, Suichi T, Shibuya K, Nakamura K, Kano H, Otani R, Morooka M, Ogushi M, Nagashima K, **Sato Y**, **Kurivama N**, Kuwabara S. Prevalence, Clinical Profiles, and Prognosis of CIDP in Japanese Nationwide Survey: Analyses of 1,257 Diagnosis-Confirmed Patients. *Neurology*. 2024;102(6):e209130. doi:10.1212/WNL.0000000000209130

52. Matsui N, Tanaka K, Ishida M, Yamamoto Y, Matsubara Y, Saika R, Iizuka T, Nakamura K, **Kurivama N**, Matsui M, Arisawa K, Nakamura Y, Kaji R, Kuwabara S, Izumi Y, for the Japanese SPS Study. Prevalence, Clinical Profiles, and Prognosis of Stiff-Person Syndrome in a Japanese Nationwide Survey. *Neurol Neuroimmunol Neuroinflamm*. 2023;10(6):e200165. doi:10.1212/NXI.0000000000200165

53. Terada S, Kawaguchi S, **Nakatani E**, Inagawa A, Hikichi T, Takeda S, Ishiguro Y, Kashima H, Hirata T, Ikeda S, Asahara K, Satoh T, Masui Y, Matsuda M, Itai R, Kawai A, Endo S, Kurokami T, Shirane N, Ohno K. Prospective study on planned biliary stent placement to treat small common bile duct stones. *JGH Open*. 2024;8(2):e13040. doi:10.1002/jgh3.13040

54. Nakamura S, Morohoshi K, Inada E, **Sato Y**, Watanabe S, Saitoh I, Sato M. Recent Advances in In Vivo Somatic Cell Gene Modification in Newborn Pups. *IJMS*. 2023;24(20):15301. doi:10.3390/ijms242015301

55. Negoro H, **Setoh K**, Fukunaga A, Kawaguchi T, Funada S, Yoshino T, Yoshimura K, Mathis BJ, **Tabara Y**, Matsuda F, Ogawa O, Kobayashi T. Risk analyses of nocturia on incident poor sleep and vice versa: the Nagahama study. *Sci Rep*. 2023;13(1):9495. doi:10.1038/s41598-023-36707-y

56. Aoki K, Murayama Y, **Tanaka Y**, Ishibashi T, Irie K, Fuga M, Kato N, Kan I, Nishimura K, Nagayama G. Risk factors and management of intraprocedural rupture during coil embolization of unruptured intracranial aneurysms: role of balloon guiding catheter. *Front Neurol*. 2024;15:1343137. doi:10.3389/fneur.2024.1343137

57. Ogawa T, **Fujimoto S**, Omon K, Ishigaki T, Morioka S. Shared decision-making in physiotherapy: a cross-sectional study of patient involvement factors and issues in Japan. *BMC Med Inform Decis Mak*. 2023;23(1):135. doi:10.1186/s12911-023-02208-1

58. Hirata R, Katsuki N, Shimada H, **Nakatani E**, Shikino K, Saito C, Amari K, Oda Y, Tokushima M, Tago M. The Administration of Lemborexant at Admission is Not Associated with Inpatient Falls: A Multicenter Retrospective Observational Study. *IJGM*. 2024;Volume 17:1139-1144. doi:10.2147/IJGM.S452278

59. Hirose K, Ikai A, Ito H, Ishidou M, Toritsuka D, Nakamura Y, Watanabe S, **Nakatani E**, Sakamoto K. The effect of the conduit size on middle-term outcomes in patients with extracardiac total cavopulmonary connection. *Interdisciplinary CardioVascular and Thoracic Surgery*. 2024;38(2):ivae013. doi:10.1093/icvts/ivae013

60. Eguchi H, **Kojimahara N**, Kanamori S, Imamura K, Tani N, Ebara T. The use of digital health technology to provide mental health services for employees in Japan. *EOH-P*. 2023;6(1):n/a. doi:10.1539/eohp.2023-0016-CT

61. Takayama A, Fukasawa T, **Takeuchi M**, Kawakami K. Timing of Initiation of Xanthine Oxidase Inhibitors Based on Serum Uric Acid Level Does Not Predict Renoprognois in Patients with Preserved Kidney Function. *Metabolic Syndrome and Related Disorders*. 2024;22(3):222-231. doi:10.1089/met.2023.0238

62. Tawfik A, Kawaguchi T, Takahashi M, **Setoh K**, Yamaguchi I, **Tabara Y**, Van Steen K, Sakuntabhai A, Matsuda F. Transcriptomic Analysis Reveals Sixteen Potential Genes Associated with the Successful Differentiation of Antibody-Secreting Cells through the Utilization of Unfolded Protein Response Mechanisms in Robust Responders to the Influenza Vaccine. *Vaccines*. 2024;12(2):136. doi:10.3390/vaccines12020136

63. Tawfik A, Kawaguchi T, Takahashi M, **Setoh K**, Yamaguchi I, **Tabara Y**, Van Steen K, Sakuntabhai A, Matsuda F. Trivalent inactivated influenza vaccine response and immunogenicity assessment after one week and three months in repeatedly vaccinated adults. *Expert Review of Vaccines*. 2023;22(1):826-838. doi:10.1080/14760584.2023.2262563

64. Tago M, Hirata R, Katsuki N, **Nakatani E**, Tokushima M, Nishi T, Shimada H, Yaita S, Saito C, Amari K, Kurogi K, Oda Y, Shikino K, Ono M, Yoshimura M, Yamashita S, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita S ichi. Validation and Improvement of the Saga Fall Risk Model: A Multicenter Retrospective Observational Study. *CIA*. 2024;Volume 19:175-188. doi:10.2147/CIA.S441235

65. Hamada Y, **Nakatani E**, Nagahama T, Nagai K, Nagayama K, Tomita Y, Kamide Y, Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y. Validation of asthma discrimination criteria using health insurance claims data in Japan: Additional proposals for more specific criteria. *Allergology International*. 2023;72(4):594-596. doi:10.1016/j.alit.2023.05.002

66. Tani N, Fujihara H, Ishii K, Kamakura Y, Tsunemi M, Yamaguchi C, Eguchi H, Imamura K, Kanamori S, **Kojimahara N**, Ebara T. What digital health technology types are used in mental health prevention and intervention? Review of systematic reviews for systematization of technologies. *Journal of Occupational Health*. 2024;66(1):uiad003. doi:10.1093/jocuh/uiad003

67. 田中慧, **佐藤康仁**, 岩崎直子. MODY1 および MODY3 患者における個別化医療のアウトカム-7 症例の実践-. *糖尿病*. 2023;66(10).

68. 平井健太, 志賀弘基, 多田朋弥, **中谷英仁**, 本岡眞琴, 高橋孝太郎, 竹内泰代, 中村元哉, 坂本裕樹. 経カテーテル的大動脈弁置換術の術前 CT を用いた膜性中隔長の心周期, 計測方法による変化の検討: 単施設クロスセクショナル研究. *日本放射線技術学会雑誌*. 2023;80(1):26-35. doi:10.6009/jjrt.2024-1398

69. 朝比奈彩, **中谷英仁**, **佐藤洋子**, 小野孝明, **田原康玄**. 国保レセプトデータから慢性骨髄性白血病患者を抽出するための条件の検討. Published online February 2024. doi:10.11406/rinketsu.65.99

70. 牧信行, **中谷英仁**, 浅田彩乃. 静岡市における死体検案事例の調査からみた孤独死定義の考察とコロナ禍前後の変化. *日本プライマリ・ケア連合学会誌*. 2023;46(4):124-131.

総説 (筆頭著者に限る)

1. **藤本修平**. Evidence-based practice における情報の適用と評価. *Journal of Clinical Rehabilitation*. 2023;32(10).
2. **小島原典子**. RLS 診療ガイドライン—Minds 診療ガイドライン作成マニュアル 2020 に沿った作成方法—. *神経治療学*. 2023;40(4):499-502. doi:10.15082/jsnt.40.4_499
3. **清田友里**, **山本精一郎**. がん検診受診勧奨におけるナッジ等の行動科学の有用性. *日本健康教育学会誌*. 2023;31(2):83-92.
4. **天笠崇**. ともに考えるメンタルヘルス対策. *労働と医学*. 2024;(160):5-16.
5. **藤本修平**, 松尾豊. 医療における AI 活用. *日本内科学会雑誌*. 2023;112(9).
6. **清田友里**. 行動科学で地域住民の健康行動を変える 第 1 回 ナッジ等の行動科学を活用した全国自治体におけるがん検診受診率向上の取組. *Medical Forum CHUGAI*. 2023;27(1).
7. **堀内泰江**. 当事者参加型の倫理委員会の意義と可能性:ゲノム研究を例にとってゲノム研究成果をどのようにゲノム医療に活かすか? 研究者・遺伝カウンセラーの立場から. *精神神経学雑誌*. 2023;2023(特別号):S608.
8. **堀内泰江**. 石黒浩毅. 特集 よくわかる! 精神疾患対応 これ 1 冊-内科医と精神科医の連携のために 第 2 部 精神科との連携が特に必要な領域 14 精神疾患に関する遺伝カウンセリング. *診断と治療*. 2024;112(増刊号):113-116. doi:10.34433/dt.0000000664
9. **藤本修平**. 臨床の疑問を科学する-情報の取捨選択と疑問を検証する考え方-. *福岡学療法*. 2024:36.

国際学会発表 (代表発表者に限る)

【招待講演】

1. **Sato Y**, Taki M, **Kojimahara N**. A cohort study on the use of commercial induction heating cookers by pregnant women and the birth weight of their children. Presented at: URSI GASS 2023; August 23, 2023.
 2. **Hatta T**. Application of the Cultural Narrative Framework to Mixed Methods Study in Japan. Presented at: Fifth Asia Regional Mixed Methods Conference; September 9, 2023.
 3. **Horiuchi Y**, Lee J. HGA 2023 Genetic Counseling Programs Session2: From clinical practice -Challenges in Sharing Genetic Information within Families and GC practice issues. Presented at: Human Genetics Asia 2023; October 14, 2023.
- 【一般口演】
1. **Tabara Y**, Kohara K, Okada Y, Ohyagi Y, Igase M. Creatinine-to-cystatin C ratio, as a novel marker of skeletal muscle mass and myosteatosis. Presented at: 19th EuGMS 2023; September 2023.
 2. **Urano T**. SSC Fibrinolysis Introduction. Presented at: ISTH SSC; June 24, 2023.
 3. **Urano T**. Three Distinct Clot Lysis Assays to Detect Activities of PAI-1, TM/TAFI and a2 Antiplasmin: Their Applications to Assess TXA Necessity, PAI-1 Deficiency and Soluble TM Function in Plasma. Presented at: Gordon Research Conference: Plasminogen Activation and Extracellular Proteolysis; February 19, 2024.

国内学会発表 (代表発表者に限る)

【招待講演】

1. **山本精一郎**. がん検診研究の研究費配分と今後の方向性について. Presented at: がん予防学術大会; September 8, 2023.
2. **山崎浩司**. グリーフサポートの健康増進的アプローチ: コンパッション・コミュニティの構築に向けて. Presented at: 第 37 回日本助産学会学術集会; October 2023.
3. **田原康玄**. 家庭血圧計で測る睡眠時血圧 ~方法・要因・意義~. Presented at: 第 45 回日本高血圧学会総会; September 2023.
4. **古川茂人**. 「聞こえ」の困難への心理物理学的アプローチ. Presented at: 日本基礎心理学会第 42 回大会; December 2, 2023.
5. **藤本修平**. 理学療法士の将来設計. Presented at: 第 58 回日本理学療法学会学術研修大会; May 27, 2023.

【シンポジウム】

1. **田中仁啓**. Cardiovascular Epidemiology in Japan: From the Past to the Present. Presented at: 第 88 回日本循環器学会学術集会; March 8, 2024.
2. **高山智子**. がんにおける当事者支援: がんサロンとピア・サポート. Presented at: 第 49 回日本脳卒中学会学術集会; March 7, 2024.
3. **堀内泰江**. ゲノム研究成果をどのようにゲノム医療に生かすか?—研究者・遺伝カウンセラーの立場から—. Presented at: 第 119 回日本精神神経医学学会学術総会; June 24, 2023.
4. **佐藤康仁**. 作成委員になろう! Minds 診療ガイドライン作成初級講座 SR:④エビデンス総体の評価. Presented at: 第 61 回日本癌治療学会学術集会; October 20, 2023.
5. **小島原典子**. 産業保健領域における予防ガイドラインの作成方法-GRADE アプローチの応用-. Presented at: 第 96 回日本産業衛生学会; May 2023.
6. **藤本修平**. 神経心理学法におけるデータサイエンスの適用. Presented at: 第 21 回日本神経心理学法学会学術大会; September 10, 2023.
7. **中谷英仁**. 静岡県市町国保データベース (SKDB) の活用: 胆石症リスク因子、大腿骨骨折後の死亡率予測、ヒドロクロロチアジドの非メラノーマ皮膚がんリスク. Presented at: 第 18 回医療の質・安全学会学術集会; November 25, 2023.
8. **田中仁啓**. 痛風・尿酸核酸領域のアップデート~最近の論文まとめ読み~. Presented at: 第 57 回日本痛風・尿酸核酸学会; March 1, 2024.
9. **八田太一**. 文化的背景を認識し混合研究法に組み込むことの含意. Presented at: 第 9 回日本混合研究法学会学術大会; October 28, 2023.
10. **藤本修平**. 理学療法士におけるスタートアップへの扉. Presented at: 第 10 回日本地域理学療法学会学術大会; December 17, 2023.

2023年度 論文及び学会等発表一覧

【一般口演】

1. **高山智子**, 市瀬雄一, 渡邊ともね, 東高弘. がん患者の家族への負担の認識とその背景に関する分析. Presented at: 第 82 回日本公衆衛生学会総会; November 2, 2023.
2. **高山智子**, 齋藤弓子, 近藤まゆみ, 品田雄市, 清水奈緒美, 小郷祐子, 高橋朋子, 八巻知香子. がん診療連携拠点病院の相談支援業務の整備指針の対応状況と院内外の支援に関する研究. Presented at: 第 61 回日本癌治療学会学術集会; October 20, 2023.
3. **栗山長門**, 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 山田恵, 水野敏樹, 渡邊能行. ヒト DMP1 と FGF-23 を介するリン代謝（骨のミネラル化）の関連—地域住民の骨量調査データから—. Presented at: 第 25 回日本骨粗鬆症学会; October 1, 2023.
4. **田原康玄**, ながはまスタディグループ. もやもや病リスク遺伝子 RNF213 の遺伝型は地域住民の心疾患発症と関連する. Presented at: 第 59 回日本循環器病予防学会学術集会; June 2023.
5. **栗山長門**, 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 山田恵, 水野敏樹, 渡邊能行. 運動器症候群（ロコモティブシンドローム）診断におけるコルチゾールを介した交感神経の生理学的活動. Presented at: 第 76 回日本自律神経学会総会; October 29, 2023.
6. **栗山長門**, 尾崎悦子, 松井大輔, 小山晃英, 渡邊功, 山田恵, 水野敏樹, 渡邊能行. 運動器症候群（ロコモティブシンドローム）早期診断における自律神経学的系連関. Presented at: 第 64 回日本神経学会学術大会; June 2, 2023.
7. **田原康玄**, 朝比奈彩, 小川紋, **佐藤洋子**, **栗山長門**. 健康的な肥満と循環器疾患、総死亡との関連 ～ 静岡スタディ. Presented at: 第 94 回日本衛生学会学術総会; March 2024.
8. **森寛子**. 在宅介護者の「介護重責感の軽減」と患者の経口摂取回復度合いや食の物性・量の関係：質問票による横断研究. Presented at: 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会; September 2, 2023.
9. **田原康玄**, 岡田陽子, 越智雅之, 大八木保政, 伊賀瀬道也. 四肢骨格筋指数とクレアチニン・シスタチン C 比は骨格筋の異なる特性を反映する. Presented at: 第 65 回日本老年医学会学術集会; June 2023.
10. **佐藤洋子**, **濱田友里**, 武藤香織, **山本精一郎**. 新型コロナウイルス感染症流行が女性の生活習慣や健康に及ぼす影響の実態把握. Presented at: 日本公衆衛生学会総会; November 1, 2023.
11. **田原康玄**, **瀬藤和也**, 川口喬久, 松田文彦. 地域在住高齢者において四肢骨格筋指数は総死亡と関連する～ながはまスタディ. Presented at: 第 65 回日本老年医学会学術集会; June 2023.
12. **栗山長門**, 尾崎悦子, 小山晃英, 猪原匡史, 齊藤聡, 松井大輔, 渡邊功, 山田恵, 赤澤健太郎, 佐治直樹, **田原康玄**, 高嶋直敬, 渡邊能行. 脳内深部白質病変における認知障害の候補指標である脳血管内皮細胞型 APP770 と随伴する血管性アミロイド β の検討. Presented at: 第 13 回日本脳血管・認知症学会; August 5, 2023.

【講演・セミナー】

1. **堀内泰江**. ゲノム医療と遺伝カウンセリング. Presented at: 第 42 回日本社会精神医学会; March 14, 2024.
2. **小島原典子**. 産業医生涯研修会「医師の働き方改革 医療機関勤務環境評価センターによる第三者評価を中心に」. Presented at: 第 31 回日本医学会総会; April 23, 2023.